

日・時間	学 習 活 動	留 意 事 項
1 日 目 3	<p>1～3 はじめまして、よろしくね 「にゅうがくしきに さんかしよう」</p> <p>○ <u>入学式（学校行事）</u>に参加する。 ・当該校の計画による。</p> <p>○ <u>学級活動</u>に参加する。 ・学級担任の話を聞く。</p> <p>・学校名、学級名、学級担任の名前を知る。</p> <p>・自分の名前を呼ばれたら、大きな声で返事をする。</p> <p>・明日の予定を聞く。</p>	<p>時間計上にかかわる各教科等：行事 学活 「10の姿」：（ホ）社会生活との関わり （ハ）協同性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・待っている時間に、歌や簡単な手遊び等で緊張感をほぐすとよい。 ・式の前にトイレに行かせる。 ・おじぎ、「ありがとうございます」の練習、式に参加する心構えを話してから、入場させる。 ・補助の教師が最後まで付き添い、学級担任の補助をする。 ・教師に注目をさせてから話すようにする。「おへそを先生の方に向けて」「椅子ごとこちらを向いて」等の指示をすると伝わりやすい。 ・短冊を貼ったり、黒板に書いたりして、学校名、学級名、学級担任の名前を示し、教師の後に続けて言わせるとよい。 ・教師が元氣よく右手を挙げて「はい」と返事するなど、手本を示すとよい。 ・教師が児童の近くに行き、視線を合わせながら、呼名する方法もある。その際、一人一人の返事の仕方であった点を具体的にに取り上げ、称賛するとよい。 ・持ち物、登校の仕方、服装・安全帽・名札、下校予定時刻・下校方法等を、学年便りなどを利用して、簡潔に説明する。 ・明朝、教室に来たら、ランドセルを机の上に置いて待つよう、児童に指示しておくとうい。 ・保護者と一緒に、ロッカーや靴箱、傘立ての場所を確認させてから下校させる。
2 日 目	<p>1 はじめまして、よろしくね 「しぎょうしきに さんかしよう」</p> <p>○ <u>始業式（学校行事）</u>に参加する。 ・当該校の計画による。</p>	<p>時間計上にかかわる各教科等：行事 「10の姿」：（ホ）社会生活との関わり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・式の前にトイレに行かせる。 ・静かに整列させる。 ・教室で、隣の子と手をつながせて、席から順番に並ばせるとよい。 ・廊下を歩くときは、右側を2列で静かに歩くことを伝える。
	<p>2 はじめまして、よろしくね 「じぶんで できる ことを ふやそう」①</p> <p>○ <u>生活科</u>の教科書口絵P.2～5「なかよく なりたいね」「じぶんで できるよ」を基に、朝、登校するときに関わる人に どのような挨拶をするとよいか発表する。 「朝、家を出るときに、行ってきますと言っています。」 「通学団で集合するとき、みんなにおはよ</p>	<p>時間計上にかかわる各教科等：生活 学活 「10の姿」：（ホ）社会生活との関わり （ロ）自立心（リ）言葉による伝え合い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の学校に対する興味・関心を大切に、学校生活への安心感と期待感を高めさせる。 ・挨拶に関心をもち、挨拶を進んでできるようになりたいという意欲を高めさせる。 ・みんなの前では、「はい」と返事をして、丁寧な言葉遣いで話すことができるとよいことを伝える。

2 日 目	<p>うと言います。」 「交通指導員さんに、おはようございますと言っています。」 「外靴は自分の下駄箱の場所に入れます。」等</p> <p>○生活科の教科書口絵P.3「じぶんでできるよ」を基に、用具を机の中に整理してしまう、ランドセルをロッカーにしまう、提出物を出す等、登校後に行うことを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ランドセルを机の上に置く。 ・持ってきたものを机の上に出す。 ・持ってきたものを机の中に整理をして入れる。 <p>・ランドセルをロッカーにしまう。</p> <p>・提出物を出す。</p> <p>○トイレの場所、使い方、スリッパの揃え方を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トイレの場所を知る。 ・トイレを使う。 <p>・スリッパを揃える。</p> <p>・手を石鹸で洗い、ハンカチで拭く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・3日目に指導する学活「ぼくもわたしも 1ねんせい」の学習内容と関連させて、用具を机の中に整理してしまう、ランドセルをロッカーにしまう、提出物を出す等、登校後にやることを知らせる。 ・帽子がある場合は、ランドセルの横に置くように声掛けする。 ・ランドセルの向きを逆にすると、中の物が取り出しにくいことに気付かせる。 ・絵などの掲示物を貼るときは、児童の目の高さに掲示するとよい。 ・道具箱を机の中に入れる場合は、箱のふたと本体とを並べ、左側に学校に置く道具類（お泊まり箱）、右側に教科書・ノート類（持ち帰り箱）を入れるなど、学年で約束を決めて指導する。 ・机の中へのしまい方が、いつ見ても確認できるように絵で示し、掲示しておくといよい。 ・お泊まりの箱の整理については、大きい物は下にする、向きをそろえる、よく使う道具は取り出しやすい手前や上にする等、活動をさせながら教えるとよい。 ・ロッカーに、児童の名前を書いたテープなどを貼っておくといよい。 ・帽子や上着の扱いについては、学校や学年の方針による。 ・ランドセルを入れる向きを確認させる。 ・この時期は、保護者からの連絡も多いので、提出箱などを用意しておくといよい。 ・連絡帳は、毎日開いて提出させるようにする。 ・朝の支度がスムーズにできるようになるまで、絵や言葉で順序を簡潔に示したカードなどを黒板に掲示するとよい。 ・幼児教育施設と比べて小学校のドアは大きく、圧迫感があるので、抵抗感を少なくするために、ドアに動物の絵などを掲示しておくといよい。 ・足を置く位置が分かるように足形マークを床に貼っておくといよい。 ・トイレ前に並ぶ位置を示すテープを貼っておくと、落ち着いて待てるようになる。 ・排泄の手順をイラストで示し、個室トイレの内側に貼っておくといよい。紙の長さを表すイラストをトイレトペーパーホルダーの横に掲示しておくといよい。 ・スリッパを逆にしたままだと次の人が履きづらいことに気付かせる。 ・履きやすい向きに揃えることは、次の人のために役立つ行為であることに気付かせる。 ・みんなが気持ちよく使うには、マナーを守ることが大切であることに気付かせる。 ・ハンカチは、毎日持参するように伝える。
3	<p>はじめまして、よろしくね 「とうげこうのしかたを おぼえよう」①</p> <p>○通学団会（学校行事）に参加して、登校の仕方を知り、きまりを守って下校する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通学団の名前、班長の名前、集合場所と集合時刻を知る。 ・交通のきまりについて知る。 	<p>時間計上にかかわる各教科等：行事 「10の姿」：（木）社会生活との関わり （二）道徳性 ・規範意識の芽生え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通学団の班長が教室まで1年生を迎えに行ったり、連絡帳に貼り付ける「連絡カード」に必要な事項（通学団の班長の名前、学年・学級等）を記入したりできるよう、職員会議などで依頼をしておくといよい。 ・通学団の担当者は、右側通行、一旦停止と左右確認、手上げ横断、信号機の色の意味等を絵や掛図などを使

3	<p>・通学団ごとに並び、交通のきまりを守って下校する。</p>	<p>って説明し、児童の安全な登下校への意識を高めさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校区の通学路の実態に合わせた指導をする。 ・必要なきまりについては取り上げて指導する。 ・通学班の班長が1年生のペースに合わせて歩けるように、職員会議などであらかじめ依頼をしておくとうい。 ・朝、班長が迎えに行くのをいつまでにするか決めておくとうい。
3 日 目	<p>朝の会から1時間目を連続した時間とし、幼児期に親しんできた遊びや活動、交流する時間などを位置付け、楽しい気持ちで1日がスタートするようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童に安心感をもたせるために、登校後に行う支度について、視覚的に理解できるように絵や言葉で示しておくとうい。視覚的な掲示により、分からなくなったら何度でも見直すことができる環境をつくっておく。 ・用具を机の中にしまう、ランドセルをロッカーにしまう、提出物を出す等、登校後に行うことを確認する。 ・自分でできた児童を称賛し、「友達が困っていたら、教えてあげよう」と声掛けすると、子ども同士が教え合って早く手順を覚えるようになる。
	<p>1 はじめまして、よろしくね 「じぶんで できる ことを ふやそう」②</p> <p>○ <u>学活</u>「ぼくもわたしも 1ねんせい」</p> <p>○ <u>国語</u>の教科書P.10～11</p>	<p>時間計上にかかわる各教科等：学活 国語 「10の姿」：(ロ) 自立心 (ハ) 協同性 (リ) 言葉による伝え合い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>生活科</u>「じぶんで できるよ」(2日目)と関連させ、自分の机の中の整頓の仕方やロッカーの使い方を確認する。 ・提出物の出し方を確認する。 ・健康観察では、名前を呼ばれたら、「はい」と返事をした後、「元気です」「お腹が痛いです」等、体調を表す事例を挙げるよう指導する。 ・手の挙げ方や発表の仕方等については、定着するまで繰り返し指導する。 ・「おはなし ききたいな」では、教室の前に児童を座らせ、教師が読み聞かせを行うとうい。 ・読み聞かせの本を選ぶに当たっては、次の時間の音楽の曲とのつながりを意識するとうい。
	<p>2 はじめまして、よろしくね 「ともだちと うたって うごいて はなして あそぼう」①</p> <p>○ <u>音楽</u>の教科書P.4～5</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>こたりのうた、ちゅうりっぷ、やぎさん ゆうびん、ちょうちょ、おつかいありさん、 こいのぼり、めだかががっこう、かえる のがっしょう、ばすごっこ、いぬのおまわりさん 等</p> </div>	<p>時間計上にかかわる各教科等：音楽 「10の姿」：(ヌ) 豊かな感性と表現 (イ) 健康な心と体 (ハ) 協同性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊張感が強く動けない児童が見られたり、幼児教育施設での取組が様々であったりと、音楽経験に差があることが考えられる。ここでは、音楽の学習が楽しく活動できるようにしながら、児童が拍や速度、強弱、曲の気分を感じ取りながら、音楽に浸って、楽しく表現できるように進める。 ・スタートカリキュラム3日目であることから、まだ教科書を使わずに、音楽の授業を行ってもよい。教科書を使うならば、P.4～5の挿絵を見て、どんな歌が隠されているか、全員で探すとよい。 ・「どんな うたが あるかな」の歌詞はP.64～65を参照する。これらの曲を全て覚え、歌えるようにする学習ではなく、みんなで歌っていくような楽しい場をつくり、交流しながら表現を楽しめるようにする。 ・児童がどの曲をどのくらい知っているかを把握し、その後の授業のウォーミングアップとして活用することも考えられる。 ・歌を歌うときは、幼児教育施設での経験を基にして、体を動かしながら歌うとうい。
3	<p>3 はじめまして、よろしくね 「じぶんで できる ことを ふやそう」③</p>	<p>時間計上にかかわる各教科等：学活 「10の姿」：(ロ) 自立心 (ハ) 協同性 (二) 道徳</p>

<div>3</div> <div>日</div> <div>目</div> <div>3</div>	<p>「とうげこうの しかたを おぼえよう」②</p> <p>○配付物や机の中の用具をランドセルにしまうなど、帰りの支度の仕方を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連絡袋に連絡帳や学校からのお便りを入れる。 <p>・ランドセルを持ってきて机の上に置く。</p> <p>・ランドセルの中に用具をしまう。</p> <p>○学年下校の仕方を知り、下校する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下校グループ名、メンバー、並ぶ位置や並び順を知り、交通のきまりを守って下校する。 	<p>性・規範意識の芽生え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学活「ぼくもわたしも 1ねんせい」の学習内容として取り扱う。 ・お便りの角と角を合わせ、片手で紙を押さえ、もう片方の手で折り目を付けるときに、「手でアイロンがけてね」と声掛けをしながら、教師が手本を見せるとよい。 ・お便りなどをすぐになくしてしまう児童には、名前を書くように声掛けするとよい。 ・ランドセルの金具が顔に当たらないように、注意させる。 ・上着、帽子の準備をさせる。 ・学校に置く道具類（お泊まり箱）について、説明する。 ・教科書・ノート類（持ち帰り箱）を取り出し、机の上で整理して、大きいものから順番にランドセルの中に入れるよう説明する。 ・自分の持ち物かどうかを確認させる。 ・通学団や方面別に色やマークを指定し、表示することで、自ら行動できる児童を育てる。 ・学級の中で同じ通学団ごとにグループの編制を行ってから、学年のグループを編制して、並び順を決めるなど、事前に学年間で共通理解を図っておく。 ・下校方面別児童の一覧表を用意し、補助の教員が対応できるように配慮する。 ・解散場所から家までの危険箇所については、指導を徹底する。 ・方面別の下校時には、事前に補助の教師や保護者に依頼し、児童の安全確保に努める。 ・お迎え当番表（保護者の連絡先が入ったもの）を用意し、教務主任に渡して情報を共有し、協力を依頼しておくとうい。
<div>4</div> <div>日</div> <div>目</div>	<p>朝の会から1時間目を連続した時間とし、幼児期に親しんできた遊びや活動、交流する時間などを位置付け、楽しい気持ちで1日がスタートするようにする。</p> <hr/> <p>1 はじめまして、よろしくね 「ともだちと うたって うごいて はなして あそぼう」②</p> <p>○音楽の教科書P.6～7</p> <hr/> <p>2 はじめまして、よろしくね 「じぶんで できる ことを ふやそう」④</p>	<p>・幼児教育施設での生活を小学校にも取り入れることによって、児童に安心感をもたせるようにする。例えば、教室や廊下の一角にコーナーを設けたり、低学年図書室や学習室などの特別教室が近くにあれば、それらを開放したりするとよい。</p> <p>・積み木や折り紙等を用意し、登校後に支度を終えてから、自分のやりたい遊びを考えたり、選んだりできるようにするとよい。</p> <hr/> <p>時間計上にかかわる各教科等：音楽 生活</p> <p>「10の姿」：(ヌ)豊かな感性と表現 (イ)健康な心と体 (ハ)協同性 (リ)言葉による伝え合い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ゴー アンド ストップ」の曲を聴きながら歩いたり止まったりすることで、音が鳴っているときとないときの違いや、速度や強弱の変化などに気付き、音楽を集中して聴く力を身に付けることをねらいとする。 ・児童の「予測した動き」を避けるために、3通りある音源を利用するとよい。 ・「はくに あわせて」では、教師の規則的な拍打ちに合わせて手拍子や足踏みなどを行うことで、少しずつ拍感を身に付けるようにし、友達との関わりをもたせる。 ・生活科の教科書口絵P.6～7「みんなで あそぼう」の学習と関連させて、友達と仲良くなりたいという気持ちを高める。 <hr/> <p>時間計上にかかわる各教科等：学活 生活</p> <p>「10の姿」：(イ)健康な心と体 (ロ)自立心 (リ)言葉による伝え合い (ハ)協同性 (ホ)社会</p>

4	<p>○手洗い場の使い方を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・順番に並ぶ。 ・水の出し方と止め方を知る。 ・石鹸を使って、指の間や手首まで洗う。 <p>○生活科の教科書口絵P.4～5「じぶんでできるよ」を基に、学校での生活を想像する。 「手を洗ったらハンカチで拭きます。」 「ハンカチ、ティッシュは毎日持ってきます。」 「トイレは使ったら水を流します。」 「爪がのびていたら切ります。」 等</p>	<p>生活との関わり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学活「ぼくも わたしも 1ねんせい」の学習内容として取り扱う。 ・児童の数より蛇口が少ないことに気付かせ、みんなで順序よく使うように指導する。手洗い場には、並び方を示すテープを床に貼っておき、自分で考えて行動させるとよい。 ・手洗い場には、手を洗うポイントが示された掲示物を貼り、指と指の間や指先など、細かい部分も意識して手を洗うように指導する。 ・教科書の挿絵を示しながら、おなかが痛くなったときや教室が分からないとき、自分の靴を入れる場所が分からないとき等、困ったことがあった場合は担任の先生に相談するとよいことを伝え、児童に安心感をもたせる。
3 日 目	<p>3 はじめまして、よろしくね 「すてきな ものを みつけよう」①</p> <p>○国語の学習について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読む、書く、話す、聞くなど言葉の勉強 <p>○準備の仕方を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業が始まる前に用具を準備する。 <p>○国語の教科書の開き方を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表紙の折り目を付ける。 ・裏表紙の折り目を付ける。 ・教科書の真ん中辺りを開き、上から手で押さえる。 <p>○国語の教科書巻頭～P.5「はるが きた」を学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P.5までの挿絵から、見付けたものを発表する。 「海が見えます。」 「ふうせんが飛んでいます。」 「みんなで絵をかいています。」 「子どもたちがたくさんいます。」 「先生がいます。」 「大きな紙飛行機にのっています。」 「空を旅しています。」 等 	<p>時間計上にかかわる各教科等：国語</p> <p>「10の姿」：(リ)言葉による伝え合い (ハ)協同性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」「書くこと」の他に、「話すこと」「聞くこと」が大切であることを知らせる。 ・筆箱、下敷き、教科書を重ねて机の前方脇に整理して置かせ、これから授業が始まることへの期待感をもたせる。 ・筆箱の中身を確認させる。 ・準備する用具は、学年便りなどを通して、前もって家庭に連絡しておくといよい。 ・時間割の読み方を教え、家庭においては、連絡帳や時間割表を確認しながら、翌日の学習用具を早めにそろえるように指導し、習慣化させる。 ・新しい教科書を開くのは初めてなので、他の教科でも応用できるよう、教科書の開き方を丁寧に教える。 ・「指アイロン」「手のひらアイロン」などの言葉を使い、指や手のひらで折り目をしっかりと付けさせるとよい。 ・教科書拡大図（デジタル教科書や掛図）があれば、活用を図る。 ・発表するときの手の挙げ方、指名されたときの返事の仕方、答え方を指導し、練習させる。 ・「はい、〇〇です」「はい、〇〇ます」という基本的な話型を教える。 ・アリ、ゾウなど動物の大きさで、活動ごとの声の大きさの目安を視覚的に伝えるとよい。 ・友達が見付けた物を指で押さえさせたり、教科書拡大図（デジタル教科書等）を活用して確認させたりする。 ・挿絵から、「たのしいこと」がたくさん始まろうとしていることに気付かせる。 ・自由に発表させる。
5 日 目	<p>朝の会から1時間目を連続した時間とし、幼児期に親しんできた遊びや活動、交流する時間などを位置付け、楽しい気持ちで1日がスタートするようにする。</p> <p>1～2 はじめまして、よろしくね 「ともだちと うたって うごいて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1日の流れ、机の上に出す物等は、いつも決まった場所に表示し、視覚に直接訴えるようにするとよい。子どもたちの集中力を高めるために、教室前面はシンプルにしたい。教卓やロッカーの上など、子どもの目に入る所は、できるだけ物を置かないようにし、常にきちんと整理しておく。 <p>時間計上にかかわる各教科等：音楽 国語 生活 体育</p> <p>「10の姿」：(ヌ)豊かな感性と表現 (イ)健康な心</p>

5 日 目	<p>はなして あそぼう」③</p> <p>○ <u>音楽</u>の教科書P. 6～7</p> <p>○ <u>国語</u>の教科書P. 10～11</p> <p>○ <u>体育</u>の仲間づくりのゲームとして、「ゲーム（鬼遊び）」を行い、たくさんの友達と仲良く遊ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鬼遊びのルールを決める。 ・鬼遊びをする。 	<p>と体 （ハ）協同性 （リ）言葉による伝え合い （二）道徳性・規範意識の芽生え（へ）思考力の芽生え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・拍に合わせて手を打ったり、友達と手を合わせたりする。テンポの違いによって動作が変わる楽しさを感じさせる。 ・「おはなし ききたいな」では、教室の前に児童を座らせ、教師が読み聞かせを行うとよい。 ・幼児教育施設で読み聞かせをしてもらった経験を想起させ、自分の好きな本を発表し、伝え合う時間にしてもよい。 ・<u>生活科</u>の教科書口絵P. 6～7「みんなで あそぼう」での学習を基に、どんな遊びがしたいかを考えさせながら、鬼遊びへとつなげる。 ・「ゲーム（鬼あそび）」は、<u>体育</u>として計上するが、ここでは、遊びの一環として行わせる。 ・赤白帽子を着用させる。 ・鬼の決定、逃げてよい場所、鬼の交代の仕方等、児童の意見を取り入れながら、ルールを決めさせる。 ・友達と名前を呼び合い、仲良く活動する中で、攻めたり逃げたりすることのおもしろさに気付かせる。 ・こおり鬼、しっぽ取り、手つなぎ鬼、ふえ鬼、たかたか鬼等、幼児教育施設でやったことのある鬼ごっこから始めるとよい。 ・鬼になる子が偏らないように配慮し、運動量が均等になるように交代させる。 ・ルールを守っているか見守り、必要に応じて助言する。また、児童の様子を見て、よりよいルールに変更するとよい。 ・時間があれば、いろいろな鬼遊びを紹介するとよい。 ・しっぽ取りを行う場合は、しっぽになるもの（はちまき、赤白帽子など）を準備する。 ・「じぶんで できる ことを ふやそう」④の学習を想起させ、手洗いの仕方について確認し、外から帰ったら、うがいと手洗いをすることを習慣化させる。
3	<p>3 はじめまして、よろしくね 「すてきな ものを みつけよう」②</p> <p>○ <u>国語</u>の教科書P. 6～8「はるが きた」を学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P. 6～7の挿絵から、見付けたものを発表する。 「大きな木があります。」 「豆の木があります。」 「クレヨンでかいた家があります。」 「雲の上に乗っている子がいます。」 「水たまりが見えます。」等 ・P. 8の詩を読む。 	<p>時間計上にかかわる各教科等：国語 「10の姿」：（リ）言葉による伝え合い （ハ）協同性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」「書くこと」の他に、「話すこと」「聞くこと」が大切であることを知らせる。 ・教科書拡大図（デジタル教科書等）があれば、活用を図る。 ・発表するときの手の上げ方、指名されたときの返事の仕方、答え方を重ねて指導し、練習させる。 ・友達が見付けた物を指で押さえさせたり、教科書拡大図（デジタル教科書や掛図）を活用して確認させたりする。 ・自由に発表させる。 ・ひらがながまだ読めない児童にも配慮し、まず教師が範読する。範読後の追いかけ読み、供読み、一斉読みなど、読み方を工夫して音読指導を行う。 ・詩を読むことを通して、これからの学習に期待感をもたせるようにする。
6 日 目	<p>朝の会から1時間目を連続した時間とし、幼児期に親しんできた遊びや活動、交流する時間などを位置付け、楽しい気持ちで1日がスタートするようにする。</p> <p>1～3 がっこうだいすき 「ともだち いっぱい にこにこ げえむ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・4時間目は学校裁量の時間とする。 <p>時間計上にかかわる各教科等：国語 「10の姿」：（ロ）自立心 （リ）言葉による伝え合い</p>

「めいし こうかん げえむ」を しょう」①

- 国語の教科書P. 16を見て、友達をたくさん増やすために、自己紹介をし合うことを知る。
- 教科書P. 16の挿絵に着目させ、自己紹介するときに名刺カードを渡していることに気付かせる。これから、どんな名刺カードをつくりたいか思いをふくらませる。

- 名刺カードを作るために、教科書P. 14を見て、正しい鉛筆の持ち方や正しい姿勢で書くことを知る。

- ・「唱え歌」を唱えながら、鉛筆の正しい持ち方、正しい姿勢を知る。

えんぴつ つまんで
もちあげて
すうっと たおして
なかゆび まくら
きちんと じょうずに
もてたかな

あしは ペったん
せなかは びん
おなかと せなかに
ぐう ひとつ
かみを おさえて
さあ かこう

- ・正しい鉛筆の持ち方や正しい姿勢に気を付けて、P. 14～15の直線や曲線をなぞる。

- 「い・ち・ね・ん」と組や自分の名前をひらがなで書く。

- ・国語の教科書P. 17に自分の名前を書く。

- 名刺カードを複数枚つくる。

- ・名刺カードに自分の名前を鉛筆で書く。
- ・名刺カードに自分の好きな物を描く。

(へ) 思考力の芽生え (ち) 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

- ・黒板に学級全員の写真を貼るとよい。
- ・黒板に座席表の枠を書き、児童から発表された名前を一人一人書き入れ、全員の名前を書くようにする。
- ・友達の名前を聞くことで、友達への関心を高め、友達と仲良くなりたいという気持ちを高めさせる。
- ・名前を呼ばれたときの返事の仕方、答え方を指導し、練習させる。
- ・教科書拡大図（デジタル教科書や掛図）を活用して、正しい鉛筆の持ち方や正しい姿勢を拡大し、視覚的に捉えやすいようにするとよい。
- ・教師が手本を見せる。また、資料は常時掲示しておくとうい。
- ・「唱え歌」の拡大紙を準備しておき、日頃からの指導に役立てる。
- ・鉛筆を3本の指できちんと支えているか個別に確認する。
- ・正しい鉛筆の持ち方が身に付くまでは、根気強く繰り返し指導する。
- ・机間指導をして、姿勢のとり方が上手な児童を具体的に称賛すると、他の児童がまねようとする。
- ・姿勢は、椅子の腰掛けから注意し、足、背筋、腹、手の順に正していくよう指導する。

- ・筆箱の中には、2 BまたはBの三角鉛筆か六角鉛筆を用意させておく。
- ・なぞる際には、矢印の方向を意識させ、ゆっくりとなぞるようにさせる。なぞりが多少はみ出しても、ゆっくり、じっくりと取り組んでいる児童を称賛する。
- ・鉛筆の持ち方や正しい姿勢、線なぞり等の指導については、書写の教科書P. 2～6で改めて行うため、ここでは無理のない範囲で行う。
- ・机に貼ってある名前シールや、黒板に書かれている座席表の名前を見て書くように指示する。
- ・支援が必要な児童には、教師が薄く下書きをしたり、鉛筆を持って書かせたりするとよい。
- ・書いた字を一人一人確認し、書けたことを褒めながら丸を付ける。
- ・自分の名前と好きな物をかくスペースを設けた簡単なカード（A 5サイズ）を準備し、配付する。
- ・名刺カードの拡大版を用意し、右半分に自分の名前、左半分に好きな物の絵を描くよう指導する。ただし、自分の名前を丁寧に書くことを優先し、時間を見ながら、好きな物の絵等を描いてもよいことを伝える。また、作った名刺の分だけ友達と名刺交換することができるとも知らせる。
- ・自分の好きなものをたくさん友達に知らせたいという思いを膨らませるようにする。
- ・右半分に大きく濃く書かせる。
- ・フェルトペンでなぞらせてもよい。
- ・絵を描くときはクレヨンを使ってもよい。
- ・左半分に大きく濃く描かせる。
- ・クレヨンの使い方の指導に当たっては、図工の教科書P. 58を参照するとよい。
- ・好きな物が思いつかない児童には、「好きな食べ物は何か」などと対話をしながら、児童が描きたい物を自分で決められるように支援する。
- ・描くことができない児童には、果物・花・車等の絵カ

3		<p>ードを用意し、見ながら描いてもよいことを伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次回は、名刺カードを交流することを伝え、明日の学習への期待感を膨らませるようにする。
7 日 目	<p>朝の会から1時間目を連続した時間とし、幼児期に親しんできた遊びや活動、交流する時間などを位置付け、楽しい気持ちで1日がスタートするようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の主体性、意欲、自発性、児童自身が活動の意義を見いだすことを大切にしたい指導を行う。「園ではどうしてた?」「どうしたらいいと思う?」等と尋ね、児童自身が考える場や時間を作り、待つことを心掛ける。 ・4時間目は学校裁量の時間とする。
	<p>1～2 がっこうだいすき 「にこにこ だいさくせん（めいし こうかん げえむ）を しょう」②</p> <p>○ <u>音楽</u>の教科書P.10～11</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「うたに あわせて かもつれっしやになって あそぼう」 <p>○ 「にこにこ だいさくせん（めいし こうかん げえむ）」の方法を知る。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>①音楽に合わせて教室の中を歩き、音楽が止まったときに、近くにいた友達とペアになる。</p> <p>②握手をして、じゃんけんをする。 ※今回はじゃんけんに勝っても、かもつれっしやにならずに、勝った方から自己紹介をすることを伝える。</p> <p>③勝った友達が、自分の名前と好きな物を伝える。 「わたしの名前は、〇〇です。 〇〇が大好きです。 よろしくお願いします。」</p> <p>④負けた友達が、自分の名前と好きな物を伝える。</p> <p>⑤名刺カードを交換し、握手をする。</p> </div> <p>○ 「にこにこ だいさくせん（めいし こうかん げえむ）」をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶、名前、好きな物を等を伝え合い、たくさんの友達と交流する。 <p>○ 「にこにこ だいさくせん（めいし こうかん げえむ）」を振り返り、楽しかったことを伝え合う。</p>	<p>時間計上にかかわる各教科等：音楽 国語</p> <p>「10の姿」：(ヌ) 豊かな感性と表現 (イ) 健康な心と体 (ハ) 協同性 (リ) 言葉による伝え合い (ロ) 自立心</p> <ul style="list-style-type: none"> ・範唱を聴いて曲の感じをつかみ、歌詞の表す情景を想像しながら主旋律を歌う。汽車になったつもりで、拍にのって腕を振りながら歌うと、曲の気分を感じ取りやすい。「がっちゃん」の後にじゃんけんをして、勝った人の組を前にするというルールを知らせる。 ・名刺カードをつくったことを想起し、「にこにこ だいさくせん（めいし こうかん げえむ）」をすることを知らせる。 ・<u>国語</u>の教科書P.16「どうぞ よろしく」として取り扱う。 ・代表の児童と一緒に、「にこにこ だいさくせん（めいし こうかん げえむ）」の方法を説明するとよい。 ・自分がつくった名刺カードは全て持たせ、友達からもらった名刺カードは、一番下にさせるとよい。 ・つくった名刺カードの数だけ「ともだち いっぱい にこにこ げえむ（めいし こうかん げえむ）」ができるが、なくなった児童には、口頭で行わせてもよいことを伝える。 <ul style="list-style-type: none"> ・教師は、グループの様子を見て回り、うまくペアがつかない児童の支援をする。 ・友達との距離が縮まるように、笑顔で楽しんで行うように支援する。 ・児童の反応を観察し、一人一人のよさを認めたり、支援したりする。 ・「友達と学習することは楽しい」という気持ちを最後に共有し合えるようにさせる。
	<p>3 はじめまして、よろしくね 「ともだち いっぱい にこにこ ひょう（たんじょうび ひょう）を つくろう」</p> <p>○ <u>図工</u>の学習について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書P.2～3を見て、幼児教育施設での経験を思い出しながら、これからどんなことがしたいか発表する。 ・絵を描いたり、新しい物をつくったりする勉強であることを知らせる。 ・自分の好きな形や色を見付け、発表する。 <p>○ 「ともだち いっぱい にこにこ ひょう（たんじょうび ひょう）」をつくる。</p>	<p>時間計上にかかわる各教科等：図工 生活</p> <p>「10の姿」：(ヌ) 豊かな感性と表現 (ヘ) 思考力の芽生え (ロ) 自立心</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆箱、下敷き、教科書を重ねて机の前方脇に整理して置かせ、これから授業が始まることへの期待感をもたせる。 ・<u>図工</u>「ずこうの スタート」として取り扱う。 ・これからしてみたい思いや願いを十分にださせながら、学習への意欲を高める。 ・<u>生活科</u>の教科書口絵P.6～7「みんなで あそぼう」での学習を想起させ、友達と仲良くなるために、「ともだち いっぱい にこにこ ひょう（たんじょうび ひょう）」をつくることを知らせ、活動への関心を高

7 日 目	<ul style="list-style-type: none"> ・「ともだち いっぱい にこにこ ひょう（たんじょうび ひょう）」をつくることを知り、自分が誕生した月を発表する。 ・クレヨンでカードいっぱいに自分の顔を大きく描いて、塗る。 ・はさみの使い方を知り、輪郭から周り1センチくらいを残して切る。 ・同じ誕生月ごとに集まり、教師が用意した台紙に自分が描いたカードをのりで貼る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「にこにこひょう」でつくったカードは、学級目標、係や当番表に活用することも考えられる。 ・クレヨン、はさみ、のり、新聞紙の下敷きを準備させる。 ・新聞紙の下敷き（新聞紙を複数枚合わせて、周りをガムテープで貼り合わせた物）を敷かせる。 ・下敷きの作成については、学年便りなどを通して、事前に保護者に依頼をしておく。 ・あらかじめ教師が風船、列車など12か月分の台紙と自分の顔を描いた見本をつくっておくとよい。 ・八つ切り画用紙を半分に切った用紙を配る。あるいは、A 5サイズ程の紙を用意し、上の枠に自分の顔を描き、下の枠に名前を書かせて、はさみを使わずにそのまま貼り付けることも考えられる。 ・<u>図工</u>の教科書P. 58のクレヨンの使い方を参考にして、教師と一緒に順番に描かせるとよい。 ・自分の顔の輪郭を指でなぞって、形や大きさを感じ取らせてから、紙にまず指で描かせ、その後クレヨンを持たせて描かせると大きく描ける。 ・顔の輪郭が小さくならないように、大きさの例を示す。 ・ゆっくりと丁寧に描かせる。 ・<u>図工</u>の教科書P. 60を基に、はさみの持ち方や紙を動かして切る方法など、切り方を教える。13日目に行く<u>生活科</u>「みつけたはるであそぼう」でも、はさみやのりの使い方について重ねて指導する。 ・刃先を人に向けてない、使わない時はしまうなど、安全な取り扱いについて約束させる。 ・「顔の周りを指一本くらい空けて切りましょう」と指示をするとよい。分からない児童には、切るところを鉛筆で薄く描いてやるとよい。 ・あらかじめ児童の生年月日を確認しておき、児童の顔の絵を貼る位置を確保しておく。また、貼らせる場所の下に、児童の生まれた月・日と名前を書いておくのと貼る場所の目安になる。 ・<u>図工</u>の教科書P. 62を基に、指の腹を使って、紙の隅々まで薄くのりをつけることを教える。 ・スティックのりを使用させてもよい。 ・所定の場所に貼るように指導する。
8 日 目	<p>朝の会から1時間目を連続した時間とし、幼児期に親しんできた遊びや活動、交流する時間などを位置付け、楽しい気持ちで1日がスタートするようにする。</p> <p>1～2 がっこうだいすき 「たいいくかんへ いって うんどう しょう」</p> <p>○<u>体育</u>の学習について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体のほたらきをよくするために、体を動かしたり、動かし方を練習したりする勉強 <p>○準備の仕方を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業が始まる前に体操服に着替えることを知る。 <p>○体操服への着替え方、畳み方を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体操服入れを机の上に置き、体操服を出す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活に必要なルールについて分かりやすく伝える工夫をしたい。例えば、体操服のたたみ方や片付け方など、全員が行う決まり事は、各工程が分かるように写真付きで掲示するとよい。 ・4時間目は学校裁量の時間とする。 <p>時間計上にかかわる各教科等：体育 学活</p> <p>「10の姿」：（ロ）自立心 （ヘ）思考力の芽生え（イ）健康な心と体 （ニ）道徳性・規範意識の芽生え</p> <p>○<u>生活科</u>P. 8「どんな ことを するのかな」での学習と関連させて、体育館に行き、学習することを伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>体育</u>として取り扱う。 ・準備する物は、学年便りなどを通して、前もって家庭に連絡しておく。 ・半袖、長袖、短パン、赤白帽子、体育館シューズなどの名称を教える。 ・上の服を脱いだ後、上の体操着を着て、下の服を脱い

8 日 目	<ul style="list-style-type: none"> ・服を脱いで、体操服に着替える。 ・着ていた服を簡単に畳んで、机の上に置く。 <p>○並び方を知り、体育館に行く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・呼ばれた順に、教室の後ろに並ぶ。 ・並ぶ順番を覚える。 <p>・前へならえをして、整列の練習をする。 「前へならえ。」「なおれ。」「気を付け。」「休め。」</p> <p>○<u>体育</u>の「ゲーム（鬼あそび）」をする。 〈ライン鬼〉 コートの中に田んぼの「田」の字になるようにあぜ道を作る。鬼はその十字架にかかれたあぜ道しか移動できない。逃げる人は、あぜ道以外を時計回りに移動するように逃げる。 〈手つなぎ鬼〉 エリアの中で、手をつないで逃げる。 〈じゃんけんしっぽ取り〉 エリアの中で、勝ったらしっぽを取りに行く。また、勝ったら相手を交わして逃げる。</p> <p>○教室に戻り、体操服のしまい方を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体操服を脱いで、服に着替える。 ・体操服を畳んで、体操服入れに入れる。 	<p>だ後、下の体操着を着るようにさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・脱いだ服を裏返しのままにしたり、畳まなかったりすると、着る時に不便なことを知らせる。 ・衣服は脱いだ物から順に畳んでいくと、着るときに便利であることを教える。 ・男女別の出席番号順に並ばせる。 ・自分の出席番号と前後の友達を覚えさせる。 ・同じ場所にもう一度並ぶことを話し、期待感をもたせてから、自分の場所（席）に戻り、再度並ぶ練習をさせてもよい。 ・「前へならえ」をするときに、先頭の児童は腰に両手を当てることを教える。 ・「トントン前」からやらせてもよい。 ・男女別の背の順、赤白に分かれた並び方などを指導するとよい。 ・慣れてきたら、先頭の位置や向きを変えてすばやく並ぶ練習をするとよい。 ・<u>学活</u>「ぼくも わたしも 1ねんせい」として、取り扱う。 ・<u>国語</u>の教科書P.12～13「なんて いおうかな」を想起させ、「お願いします」「ありがとうございました」などの挨拶をさせる。 ・3、4年生の「E. ゲーム」の領域につながるように、エリアを設けてその中で活動させるとよい。 ・約束として、確認しておくとうい。 <p>(指導例)</p> <p>ピッ・ピーの笛…「しゅっ・ごー（集合）」の合図。指輪並び…輪になって集合する。 扇子並び…教師を中心に、扇子状に集合する。 等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・逆の順番で、体操服から服に着替えさせる。 ・教師が手本を示し、体操服入れを机の上に載せ、袋の口を開いて中に入れると入れやすいことを知らせる。
	<p>3 がっこうだいすき 「えんぴつを もって かいて みよう」</p> <p>○<u>書写</u>の学習について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・字の形をまねて美しく書く勉強 <p>○準備の仕方を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業が始まる前に用具を準備する。 <p>○<u>書写</u>の教科書P.2～5「じを かく しせい」 「えんぴつの もちかた」を見て、字を書く姿勢と鉛筆の持ち方を確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・字を書く姿勢を確認する。 ・<u>国語</u>の教科書P.14～15の「唱え歌」を全員で発表する。 	<p>時間計上にかかわる各教科等：書写 「10の姿」：(口) 自立心 (へ) 思考力の芽生え (ち) 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>生活科</u>の教科書口絵P.9「どんなことを するのかな」での学習を想起させ、字を書くことへの関心を高めさせる。 ・「しょしゃ」と「かきかた」の言葉を混同して使うと児童が分からない場合もあるので気を付ける。 ・筆箱、下敷き、教科書を重ねて机の前方脇に整理して置かせ、これから授業が始まることへの期待感をもたせる。 ・準備する用具は、前もって学年便りなどを通して家庭にも連絡しておくとうい。 ・筆箱の中には、2 BまたはBの三角鉛筆か六角鉛筆を用意させておく。 ・字を書くときの正しい姿勢の掲示資料を使い、教師が手本を見せる。また、資料は常時掲示しておくとうい。 ・字を書く姿勢を指導する際は、「こし ぴん」「あしぺた」「ぐう ひとつ」を徹底する。 ・国語で使用した「唱え歌」の拡大紙を使うとうい。 ・机間指導をして、姿勢のとり方が上手な児童を具体的に称賛すると、他の児童がまねようとする。

<p>8 日 目</p>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p>えんぴつ つまんで もちあげて すうっと たおして なかゆび まくら きちんと じょうずに もてたかな</p> <p>あしは ペったん せなかは ぴん おなかと せなかに ぐう ひとつ かみを おさえて さあ かこう</p> </div> <p>○ <u>書写</u>の教科書P. 6～7「たのしく かこう」に例示されている線をなぞったり、自分の名前を書いたりする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・正しい鉛筆の持ち方の掲示資料を使い、教師が手本を見せる。また、資料は常時掲示しておくとうい。 ・鉛筆の持ち方は、<u>国語</u>の教科書P. 14を参考にするとよい。 ・鉛筆を3本の指できちんと支えているか個別に確認する。 ・正しい鉛筆の持ち方が身に付くまでは、根気強く繰り返し指導する。 ・手を用紙に対して斜めに添えさせる。 ・下敷きを必ず敷くことを指導する。教師が見本を見ながら、書くときは紙をかるく押さえ、字を消すときも紙を押さえることを伝える。
<p>3</p>	<p>朝の会から1時間目を連続した時間とし、幼児期に親しんできた遊びや活動、交流する時間などを位置付け、楽しい気持ちで1日がスタートするようにする。</p> <hr/> <p>1 はじめまして、よろしくね 「ともだちと うたって うごいて はなして あそぼう」④</p> <p>○ <u>音楽</u>の教科書P. 8～9</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>サンダーバード ピンク・パンサーのテーマ どうけしのギャロップ なみをこえてぞう</p> </div> <p>○ <u>国語</u>の教科書P. 10～11</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・4時間目は学校裁量の時間とする。 <hr/> <p>時間計上にかかわる各教科等：音楽 国語 生活 「10の姿」：(ヌ)豊かな感性と表現 (イ)健康な心と体 (ハ)協同性 (リ)言葉による伝え合い (二)道徳性・規範意識の芽生え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>生活科</u>の教科書口絵P. 6～7「みんなで あそぼう」での学習と関連させ、自分の好きな曲や本を伝える場とする。 ・幼児教育施設で歌ったことがある曲があるかどうか児童に聞いてみるとよい。 ・様々な2拍子、3拍子の曲に合わせて体を動かしながら、拍の流れや曲想に気付くようにさせる。 ・曲に合わせて体を動かすことをねらいとし、どんなふうに動いてみたいか考えさせるとよい。 ・曲に合わせて手や膝を打つてもよいことを伝える。 ・曲の気分に合わせて動きをしている児童がいたら取り上げ、その理由を問うなどして、曲想を共有していくとよい。 ・一人一人の動きのよさを認め、動きを工夫している児童を称賛する。 ・「おはなし たのしいな」では、教室の前に児童を座らせ、教師が読み聞かせを行うとよい。 ・国語の教科書に示されている本を読み聞かせすること以外にも、音楽の曲に合わせた本を選んだり、児童に読んでほしい本を聞いたりして、読み聞かせをすることも考えられる。 <hr/> <p>2 がっこうだいすき 「がっこうでの すごしかたを しろう」①</p> <p>○ <u>道徳科</u>の学習について知る。 ・気持ちや考えを友達と一緒に話し合うこと</p>

9	<p>によって、心を磨く勉強</p> <p>○ <u>道徳科</u>の教科書P. 2～5「<u>どうとくの がくしゅうが はじまるよ</u>」「<u>どうとくでは こんな がくしゅうを するよ</u>」を確認する。</p> <p>○ <u>道徳科</u>の教科書P. 6～7</p>	<p>の充実」として、「<u>がっこうだいすき</u>」を取り扱う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知多カリの上記の内容を見ると、「教師が児童一人一人と愛情のある触れ合いをすることによって、教師を敬愛しようとする心が育まれるようにすることが大切である。また、様々な学習活動を通して上級生に親しみをもったり、学校生活を支えている人々との関わりを深めたりしながら、敬愛の心を育て、学級や学校の生活を自分たちで一層楽しくしようとする態度を育てる必要がある。」とある。道徳科の授業を通して、学校のことを知りながら、集団の中での行動の仕方を学ぶとともに、自分の居場所をつくっていけるような指導をすることが望まれる。 ・教科書を拡大して提示し、児童に視覚的に捉えやすくさせるとよい。 ・学校生活の様々な場面を取り上げ、誰がいるのか、何をしているのかを考えさせる。 ・見付けたことを自由に発表させる。 ・見付けたことは、黒板に分類しながらまとめるとよい。 ・車いすに乗っている児童にも着目させ、学校はいろいろな人が共に学習する場であることを知らせる。 ・動物の飼育や花の栽培にも着目させ、これらは生活科で行う学習であることを伝えることで、学習への期待感をもたせたい。 ・教科書P. 7の左上の絵にも着目させ、図書館は本を貸し借りするところ、静かに本を読むところなど、児童の経験に基づきながら図書館のはたらきやルールについて考えさせたい。 ・学校が大好きになるように、児童の思いや願いを十分に出しながら発表させることを大切にしつつ、楽しさだけでなく、学校は集団生活のルールについて学習する場であることにも触れたい。
3	<p>3 がっこうだいすき 「かぞえて みよう」①</p> <p>○ 指を使って数を数える練習をする。 ・教師の手拍子の数を指を使って数える。</p> <p>○ 音の数だけ仲間を集める「かず あわせ げえむ」をして、遊ぶ。 ・タンブリンの音を指を使って数える方法で行う。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>①音楽が鳴っている間は、歩く。 ②音楽が止まったら、その場で止まり、タンブリンの音の数を聞く。 ③タンブリンの音の数を指を使って数えて、同じ人数で集まって座る。</p> </div> <p>○ 文字の数だけ仲間を集める「かず あわせ げえむ」をして、遊ぶ。 ・カードに書かれた文字数を指を使って数える方法で行う。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>①音楽が鳴っている間は、歩く。 ②音楽が止まったら、その場で止まり、教師が用意したカードを見る。 ③文字の数を指を折って数えて、同じ人数で集まって座る。</p> </div>	<p>時間計上にかかわる各教科等：算数 生活 「10の姿」：(リ)言葉による伝え合い (ロ)自立心 (ヘ)思考力の芽生え (チ)数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>生活科</u>の教科書口絵P. 8～9「<u>どんな ことを するのかな</u>」での 学習を想起させ、数への関心を高めさせる。 ・<u>算数</u>「オリエンテーション」として計上するが、遊びを通して、数の感覚を豊かにすることを目的とする。 ・<u>算数</u>の教科書見開きページ「<u>わくわく すたあと</u>」を見て、幼児教育施設での経験を想起させ、そこでの経験がこれから始まる学習へとつながっていくことを知らせる。 ・全員を座らせ、静かな環境の中で、指を折って数えさせる。 ・机を移動して行うとよい。 ・「さんぽ」など、<u>音楽</u>の教科書P. 68「<u>おんがくランド</u>」の曲を使う。 ・ここではまだ、折った指とタンブリン音の数が1対1で対応できればよい。 ・動物名や果物名などを活用するとよい。 ・カードには、例えば「ぞ・う」「き・り・ん」「ぱ・ん・だ」のように児童がよく知っている動物にするとよいが、慣れてきたころに、「じゃ・い・あ・ん・と・ぱ・ん・だ」など、長い名前や知らないような名前を出すと盛り上がる。(動物名の場合) ・ここではまだ、折った指と文字の数が1対1で対応できればよい。 ・「もうじゅうがり」で行う方法もある。

	<p>朝の会から1時間目を連続した時間とし、幼児期に親しんできた遊びや活動、交流する時間などを位置付け、楽しい気持ちで1日がスタートするようにする。</p>	<p>・4時間目は学校裁量の時間とする。</p>
	<p>1 はじめまして、よろしくね 「ともだちと うたって うごいて はなして あそぼう」⑤</p> <p>○ <u>音楽</u>の教科書P.8～9</p> <p>○ <u>国語</u>の教科書P.10～11</p>	<p>時間計上にかかわる各教科等：音楽 国語 「10の姿」：(ヌ) 豊かな感性と表現 (イ) 健康な心と体 (ハ) 協同性</p> <p>・音楽に合わせて体を動かすことを伝える。 ・「なみを こえて」は流れるような3拍子、「ぞう」は拍のはっきりした3拍子と違いがあるため、「なみを こえて」で横に揺れるような動きをしていたり、「ぞう」でステップを踏んだりしている子がいたら、取り上げる。 ・どうしてそういう動きをしたのか、その理由を友達に伝え合わせるようにする。 ・一人一人の動きのよさを認め、動きを工夫している児童を称賛する。 ・「おはなし ききたいな」では、教室の前に児童を座らせ、教師が読み聞かせを行うとよい。 ・<u>国語</u>の教科書に示されている本を読み聞かせすること以外にも、音楽の曲に合わせた本を選んだり、児童に読んでほしい本を聞いたりして、読み聞かせをすることも考えられる。 ・<u>道徳科</u>の授業と関連させて、図書館に行き、読みたい本を探してもよい。</p>
10 日 目	<p>2 はじめまして、よろしくね 「ほけんしつに いって したいそくていをしよう」</p> <p>○ 体操服への着替え方、畳み方を知る。 ・体操服入れを机の上に置き、体操服を出す。 ・服を脱いで、体操服に着替える。</p> <p>・着ていた服を簡単に畳んで、机の上に置く。</p> <p>○ 並び方を知り、保健室に行く。 ・番号順に、教室の後ろに並ぶ。 ・整列の練習をする。 「前へならえ。」「なおれ。」 「気を付け。」「休め。」</p> <p>○ <u>身体測定(学校行事)</u>について知り、挨拶をして、身体測定をする。 ・身体測定の意義を知る。 ・内容を知る。 ・受け方を知る。</p>	<p>時間計上にかかわる各教科等：行事 「10の姿」：(イ) 健康な心と体 (ニ) 道徳性・規範意識の芽生え</p> <p>・保健室に行き、身体測定をすることを伝える。 ・身体測定では、着替えることを知らせる。 ・上の服を脱いだ後、上の体操着を着て、下の服を脱いだ後、下の体操着を着るようにさせる。 ・脱いだ服を裏返しのままにしたり、畳まなかったりすると、着る時に不便なことを知らせる。 ・衣服は脱いだ物から順に畳んでいくと、着るときに便利であることを教える。 ・男女別の出席番号順に並ばせる。 ・「前へならえ」をするときに、先頭の児童は腰に両手を当てることを教える。 ・健康手帳を見せながら、成長の記録として身体測定は大切なものであることを説明する。 ・順番を待つ間は、静かにすることを教える。 ・<u>国語</u>の教科書P.12～13「なんて いおうかな」を想起させ、「お願いします」「ありがとうございました」などの挨拶をさせる。</p>
	<p>3 がっこうだいすき 「かぞえて みよう」②</p> <p>○ 「ともだち いっぱい にこにこ ひょう (たんじょうび ひょう)」を見て、各誕生月の児童の数を数えたり、数の大小について確かめたりする。 ・各誕生月の児童の数を指を使って数える。</p>	<p>時間計上にかかわる各教科等：算数 「10の姿」：(チ) 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 (ヘ) 思考力の芽生え (ハ) 協同性</p> <p>・「ともだち いっぱい にこにこ ひょう (たんじょうび ひょう)」を使って、数を数えることへの関心を高めさせる。 ・<u>算数</u>「オリエンテーション」として計上をするが、遊びを通して、数の感覚を豊かにすることを目的とする。 ・「ともだち いっぱい にこにこ ひょう (たんじょうび ひょう)」を掲示する。</p>

10 日 目 3	<ul style="list-style-type: none"> ・各誕生月の児童の数の大小について、1対1対応をさせながら調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「4月生まれのお友達の数を指を使って数えましょう」などと声掛けしながら、各誕生月の台紙に貼られた児童の顔の絵の数を指を折って1対1対応(絵と指)をさせながら数えさせる。 ・折った指の数だけ、黒板に○を付けていくとよい。 ・「○月生まれのお友達と○月生まれのお友達とでは、どちらの月のお友達の方が多いですか」などと質問をしながら、○月生まれと○月生まれの児童の顔の絵を1対1対応(絵と絵)をさせながら調べさせる。 ・慣れてきたら、「1番多い月は5月ですが、その次に多い月は、何月ですか」「生まれた人数が同じ月は、何月と何月ですか」等、月の人数を比較しながらいろいろな問題を出すといよい。
11 日 目	<p>朝の会から1時間目を連続した時間とし、幼児期に親しんできた遊びや活動、交流する時間などを位置付け、楽しい気持ちで1日がスタートするようにする。</p> <hr/> <p>1 はじめまして、よろしくね 「じぶんで できる ことを ふやそう」⑤</p> <p>○傘のしまい方と置く場所や、レインコートの畳み方と置く場所を知る。また、雨の日の過ごし方を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・傘を閉じる。 ・傘を置く。 ・レインコートを畳む。 ・レインコートを置く。 ・雨の日の過ごし方を考える。 「教室で静かに遊びます。」 「本などを読んで過ごします。」 等 ○朝の会の仕方を知る。 ・日直の仕事について知る。 ・朝の会の仕方について知る。 <hr/> <p>2 がっこうだいすき 「がっこうでの すごしかたを しろう」②</p> <p>○<u>道徳科</u>の教科書P.8～9</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の会では、挨拶、健康観察、今日の予定などを確認する。児童に安心感をもたせるために、毎日必ず行うことはパターン化するとよい。 ・4時間目は学校裁量の時間とする。 <hr/> <p>時間計上にかかわる各教科等：学活 生活 「10の姿」：(口) 自立心 (木) 社会生活との関わり (二) 道徳性・規範意識の芽生え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11日目の計画は、雨の日を想定している。晴れた場合は、日程の入れ替えをして実施するとよい。 ・<u>生活科</u>の教科書P.4「じぶんで できるよ」の内容を想起させ、雨の日に用具をどのようにしまったらよいのか、雨の日の過ごし方はどうしたらよいかを考えさせる。 ・<u>学活</u>「ぼくも わたしも 1ねんせい」の学習内容として、取り扱う。 ・傘を閉じてくるくと巻き、最後に留め金をしっかり留めるとよいことに気付かせる。 ・一人一人仕切りのある傘立てには、名前や番号を記しておくといよい。 ・袖と袖を合わせて畳み、袋に入れるようにさせる。 ・フック等がある場合は、乾くまで干させてもよい。 ・袋に入れたレインコートを置く場所を確認させる。 ・考えたことを実行して過ごすように声掛けをする。 <hr/> <p>時間計上にかかわる各教科等：道徳 生活 「10の姿」：(口) 自立心 (木) 社会生活との関わり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳科は1時間単位で取り扱う。 ・<u>学活</u>と関連させて学習を行うといよい。 ・<u>生活科</u>の教科書P.8～9の「どんな ことを するのか」の学習を想起させ、学校生活についての興味を高

		<p>める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳科の内容項目「C よりよい学校生活、集団生活の充実」として、「たのしい ことが いっぱい」を取り扱う。 ・教科書P.8では、季節ごとに、どんな行事や活動があるのかを考えさせる。 ・教科書P.9では、どんな学習や活動をしているのかを考えさせる。 ・自由に発表させる。 ・雨の日の過ごし方については、この時間を使って考えさせてもよい。
11 日 目	<p>3 はじめまして、よろしくね 「とうげこうの しかたを おぼえよう」③</p> <p>○生活科の教科書P.11を開き、学校の行き帰りに、どんなことに気を付けて歩いたらよいかを知る。</p> <p>○身の回りの整頓、帰りの支度について確認する。</p> <p>○帰りの会の仕方を知る。</p> <p>3</p> <p>○雨天時の下校の仕方を知る。 ・並ぶ場所や並び方を知る。 ・交通に関わるきまりを再確認する。</p>	<p>時間計上にかかわる各教科等：生活 学活 「10の姿」：(ロ) 自立心 (二) 道徳性・規範意識の芽生え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・場面絵を見ながら、気を付けるべき行動について考えさせ、○や×をなぞらせるとよい。 ・「子ども110番」の看板がついた家が、地域に必ずあることを知り、登下校の際に困ったことがあったときは、大人の人に知らせるとよいことを伝える。 ・防犯ブザーの役割や使い方についても指導する。 ・生活科の教科書P.11、136の内容は、交通安全教室や不審者避難訓練等と関連させて指導するとよい。 ・生活科の教科書P.4「じぶんで できるよ」を想起させ、帰りの支度をする際に、ロッカーやお道具箱、身の回りの片付けができるか、入学以後の生活を振り返り評価させるとよい。その際、入学以来、自分でできることが増えたことを評価し、個々の自己肯定感を高められるようにしたい。 ・「じぶんで できることを ふやそう」⑤での学習を想起させ、集団生活上必要な朝の会や帰りの会への関心を高めさせる。 ・学活「ぼくも わたしも 1ねんせい」の学習内容として、取り扱う。 ・帰りの会の時間を考慮して、会の内容をあらかじめ決めておくとうい。 ・初めは、なるべく単純な流れにしておき、スムーズに進められるようになったら、内容を増やしていくとうい。 ・学年で統一した事項を教室で簡単に説明した後、実際の場所で指導するとよい。 ・音をよく聞いて、周りをよく見て歩くよう指導する。
12 日 目	<p>朝の会から1時間目を連続した時間とし、幼児期に親しんできた遊びや活動、交流する時間などを位置付け、楽しい気持ちで1日がスタートするようにする。</p> <p>1 はじめまして、よろしくね 「ともだちと うたって うごいて はなして あそぼう」⑥</p> <p>○音楽の教科書P.6～7</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>サンダーバード、ピンク・パンサーのテーマ、どうけしのギャロップ、なみをこえて、ぞう</p> </div> <p>○国語の教科書P.10～11</p>	<p>時間計上にかかわる各教科等：音楽 国語 体育 「10の姿」：(ヌ) 豊かな感性と表現 (イ) 健康な心と体 (ハ) 協同性 (リ) 言葉による伝え合い (ヘ) 思考力の芽生え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽に合わせて手や膝を打つてもよいことを伝える。 ・どうしてそういう動きをしたのか、その理由を友達に伝え合わせるようにする。 ・一人一人の動きのよさを認め、動きを工夫している児童を称賛する。 ・国語「おはなし ききたいな」では、教室の前に児童を座らせ、教師が読み聞かせを行うとうい。 ・国語の教科書に示されている本を読み聞かせすること

12 日 目	<p>○ 約束やルールを守って「ゲーム（鬼遊び）」をする。 〈ラインおに〉 コートの中に田んぼの「田」の字になるようにあぜ道を作る。鬼はその十字架にかかれたあぜ道しか移動できない。逃げる人は、あぜ道以外を時計回りに移動するように逃げる。 〈手つなぎ鬼〉 エリアの中で、手をつないで逃げる。 〈じゃんけんしっぽ取り〉 エリアの中で、勝ったらしっぽを取りに行く。また、勝ったら相手を交わして逃げる。</p>	<p>以外にも、音楽の曲に合わせた本を選んだり、児童に読んでほしい本を聞いたりして、読み聞かせをすることも考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせの感想を聞いて交流するとよい。 ・体育として計上をするが、体操服には着替えずに遊びの一環として取り扱う。 ・幼児教育施設でも、遊ぶときに約束やルールが必要であったことに気付かせる。 ・3、4年生の「E. ゲーム」の領域につながるように、エリアを設けてその中で活動させるとよい。 ・他にも、たかたか鬼、いろ鬼等の鬼遊び、遊具を使った「ゲーム（鬼遊び）」をすることも考えられる。また、<u>生活科</u>の教科書P. 58～59「みんなで あそぼう」にあるだるまさんがころんだ、けいどろを行ってもよい。
	<p>2～3 がっこうだいすき 「みつけた はるで つくってみよう」①</p> <p>○ <u>生活科</u>の教科書P. 48～59</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校庭で遊具を使ったゲーム（鬼遊び）をした後、校庭や花壇にある樹木や草花に親しんだり、それを使って遊んだりする。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>セイヨウタンポポ オオイヌノフグリ レンゲソウ シロツメクサ ナズナ ハルジオン 等</p> </div> <p>○ 校庭や花壇で見つけた花を発表する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>チューリップ、パンジー、ビオラ、サクラソウ、ヒヤシンス、クレサンセマム、ワスレナグサ 等</p> </div> <p>○ <u>図工</u>の教科書P. 10～11</p> <p>○ 自分が描いた花を紹介する。 「たんぽぽを描きました。小さいおひさまみたいでかわいいです。」 「チューリップを描きました。お母さんのスカートみたいできれいです。」 等</p> <p>○ 片付けの仕方を知る。</p>	<p>時間計上にかかわる各教科等：生活 図工 「10の姿」：(ト) 自然との関わり・生命尊重 (へ) 思考力の芽生え (ヌ) 豊かな感性と表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1時間目の体育の学習との連続性の中で、<u>生活科</u>「みつけた はるで あそぼう」の学習を行うとよい。 ・外でみんなと遊ぶと楽しいことを感じ取らせるとともに、春の樹木や草花にも着目させる。それらを使ってどんな遊びがしたいか、児童の願いや思いを出させる。 ・幼児教育施設やこれまでの経験を聞き、春の樹木や草花を使って、どんな遊びができるかを児童に聞くとよい。 ・本時では、春の自然物に触れることを主眼とし、<u>生活科</u>の教科書P. 54、55「ものしり のうと」にある春の自然物を使った遊びについては次の日に行く。 ・必要な物を教室に持って帰ってもよいことを知らせる。 ・学活「ぼくも わたしも 1ねんせい」の学習内容を想起させ、教室に入る前に、手洗い場でうがい・手洗いをすることを伝える。 ・花の名前が分からなくても、花の色や形、大きさなど、見つけたことを自由に発表させる。 <p>・好きな形や色で描くことを楽しむとともに、好きなものや描きたいものを表現して伝え合うことをねらいとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見つけた春の中で、何を描きたいか考えさせる。 ・<u>図工</u>の教科書P. 58「クレヨン・パスで かく」を見て、持ち方や書き方を確認し、いろいろな表し方があることを伝える。 ・画用紙は、八つ切を半分にした大きさにしておき、描きたい絵を何枚か描かせるとよい。または、記録カードに絵を描かせてもよい。 ・気付きに着目させて、発表させる。 ・「〇〇みたい」という言葉を使って、比喩表現させると気付きが広がる。 ・どんどん描くのは楽しいという気持ちを高め、次は何を描こうかなという思いや願いをもたせたい。 ・クレヨンに違う色が付いたときは、ティッシュペーパーで拭き取るとよいことを伝える。使った後は、元あった箱の部屋に戻すことを伝える。

		<div>・使った物をきれいに整頓している子、大切に扱っている子を称賛し、全体に広める。</div>						
12	<div><div>4 がっこうだいすき 「おいしい きゅうしょく」①</div><div>○給食について知っていることを発表する。 「園でも給食を食べていました。」 「はしやスプーン、フォークで食べました。」 「デザートがありました。」 等</div><div>○給食の準備の仕方について知る。</div><div>○給食の準備をして、配膳をする。 ・当該校の計画による。 (活動例)</div><table><tr><td>給食当番や机拭き当番</td><td>その他</td></tr><tr><td colspan="2">・会食のためのグループをつくる。 ・手洗いをし、消毒する。 ・マスクをする。</td></tr><tr><td>・配膳台や児童机を拭く。 ・エプロンを着ける。 ・ワゴン配膳室から運ぶ。 ・配膳する。 ・エプロンやマスクを脱ぐ。</td><td>・静かに着席する ※セルフ方式の場合は、給食を取りに行く ・マスクを外す</td></tr></table><div>○会食をする。 ・揃って「いただきます」の挨拶をする。 ・分量を加減する。 ・会食を始める。</div><div>・食べられる児童は、おかわりをする。 ・揃って「ごちそうさまでした」の挨拶をする。</div><div>○後片付けをする。 ・食器などを返し、机を戻す。 ・机拭きをする。 ・ワゴンを返却する。</div><div>4 ○歯磨きをする。 ・当該校の方法による。</div></div>	給食当番や机拭き当番	その他	・会食のためのグループをつくる。 ・手洗いをし、消毒する。 ・マスクをする。		・配膳台や児童机を拭く。 ・エプロンを着ける。 ・ワゴン配膳室から運ぶ。 ・配膳する。 ・エプロンやマスクを脱ぐ。	・静かに着席する ※セルフ方式の場合は、給食を取りに行く ・マスクを外す	<div>時間計上にかかわる各教科等：生活 学活 「10の姿」：(イ)健康な心と体 (ハ)協同性 (リ)言葉による伝え合い (ロ)自立心</div> <div>・生活科の教科書P.8～9「どんなことをするのか」を想起させ、集団生活上必要な給食の配膳や会食への関心を高めさせる。</div> <div>・初めて給食を食べる日に合わせて実施する。</div> <div>・幼児教育施設では、持参した弁当を食べたり、準備してもらった給食を食べたりしていたが、小学校では、自分たちで準備をしないと食べられないことを知らせる。また、準備をして食べることこそが小学校の給食の楽しさでもあることを伝える。</div> <div>・アレルギーのある児童の保護者と連絡を密に取る。特に、給食の献立に変更があった場合は、速やかに対応をする。</div> <div>・給食当番の役割分担が分かるような当番表を事前につくり、その見方と役割について説明する。</div> <div>・給食当番のグループは、教師があらかじめ考えておく。</div> <div>・机拭き当番について説明する。</div> <div>・給食の時間と合わせて、実際に活動をさせながら教えることよい。</div> <div>・消毒薬の取り扱いや保管については、安全に関わることなので、教師が行う。</div> <div>・約束やきまりは、明確にして伝える。</div> <div>・机拭き用の台拭き雑巾の絞り方や、拭き方については、手本を示しながら、当番になった児童から順に指導することよい。</div> <div>・髪が落ちないように、帽子の中に入れさせる。</div> <div>・トイレに行きたいときは、着替える前に行くようにさせる。</div> <div>・当番以外の児童は、静かに座って待つように指導する。</div> <div>・食缶等を置く場所は、学年間で統一しておくことよい。</div> <div>・食缶等を置く場所に、ラミネート加工した絵マーク等を貼っておくと、指導がしやすい。</div> <div>・エプロンが、袋の中から飛び出さないようにしませる。</div> <div>・楽しい雰囲気の中で、会食をするように配慮する。</div> <div>・食べることが遅い児童、少食の児童、偏食の児童には、給食への不安を取り除くような声掛けをする。</div> <div>・食事の量については、個への対応にも配慮する。入学初期に無理強いさせると給食嫌いになり、それが原因で登校を渋る児童が出てくることもあることに留意したい。</div> <div>・給食に慣れてきたら、徐々に食育に関わる指導を献立に合わせて行い、食の大切さを実感させていくことよい。栄養教諭が所属する学校については、支援を依頼することよい。</div> <div>・おかわりの仕方を知らせる。</div> <div>・「ごちそうさま」をする時間を時計に図示するなど、時間を意識できる工夫をすることよい。</div> <div>・食器の返し方やごみ処理の仕方について、具体的に説明し、一つ一つ確かめながら行わせる。</div> <div>・磨き残しがないようにするために、歯を磨く順番や磨き方のポイントを示す掲示物を作っておくことよい。</div>
給食当番や机拭き当番	その他							
・会食のためのグループをつくる。 ・手洗いをし、消毒する。 ・マスクをする。								
・配膳台や児童机を拭く。 ・エプロンを着ける。 ・ワゴン配膳室から運ぶ。 ・配膳する。 ・エプロンやマスクを脱ぐ。	・静かに着席する ※セルフ方式の場合は、給食を取りに行く ・マスクを外す							

13 日 目	<p>朝の会から1時間目を連続した時間とし、幼児期に親しんできた遊びや活動、交流する時間などを位置付け、楽しい気持ちで1日がスタートするようにする。</p>	
13 日 目	<p>1 はじめまして、よろしくね 「ともだちと うたって うごいて はなして あそぼう」⑦</p> <p>○ <u>音楽</u>の教科書P. 12～13</p> <p>○ 校庭の固定施設で遊ぶときの約束やルールを考えて、遊ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 校庭で、見付けた遊具を発表し、幼児教育施設の遊具と比べ、似ているところや違うところを発表する。 「遊具が大きいです。」 「遊具がたくさんあります。」 「変わった遊具があります。」 等 遊ぶときの約束やルールを考えて発表する。 「友達を押しません。」 「順番を守ります。」 「慌てて行動しません。」 「譲り合います。」 等 正しい遊具の使い方を理解して遊ぶ。 	<p>時間計上にかかわる各教科等：音楽 体育 「10の姿」：(又)豊かな感性と表現 (イ)健康な心と体 (ハ)協同性 (ニ)道徳性・規範意識の芽生え</p> <ul style="list-style-type: none"> 範唱を聴いて曲の感じをつかみ、歌詞の表わす情景を想像して歌うことをねらいとする。 蓮華の花についての情景を豊かにするために、教科書の挿絵を利用するとよい。 遊び方を知り、8人程度を目安に手をつないで輪になり、拍に合わせて歩きながら歌うとよい。 <u>体育</u>として計上するが、体側服に着替えずに、遊びの一環として取り扱う。 一度に多くの児童が使用するので、約束やルールが必要なことに気付かせる。 危険な遊び方をすると、大きなけがにつながることに気付かせる。 遊具の使い方については、一つ一つ説明する。 遊びの約束やルールを守って、みんなで楽しく遊んでいる児童を称賛し、みんなに広め、友達のよいところをまねるように促す。 約束やルールを守って遊ぶことの楽しさをに気付かせる。
13 日 目	<p>2～3 がっこうだいすき 「みつけた はるで つくってみよう」②</p> <p>○ <u>生活科</u>の教科書P. 48～59</p> <ul style="list-style-type: none"> 校庭や花壇にある樹木や草花を使った遊び道具をつくる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>タンポポ・・・腕時計、人形、風車 レンゲソウ・・・サングラス シロツメクサ・・・かんむり ささ・・・ささぶね ナズナ・・・鈴、でんでん太鼓</p> </div>	<p>時間計上にかかわる各教科等：生活 図工 「10の姿」：(ト)自然との関わり・生命尊重 (ヘ)思考力の芽生え (又)豊かな感性と表現</p> <ul style="list-style-type: none"> 固定施設を使った遊びの後、春の自然物に目を向けさせ、校庭や花壇で見付けた春の自然物を教室に持ち帰って遊び道具をつくることを伝える。 <u>図工</u>の教科書P. 60～61「はさみで きる」を基に指導する。幼児教育施設ではさみを使った経験を確認しながら、持ち方と切り方について指導する。はさみを人に渡すときは、刃の方を持って渡すことを確認する。 <u>生活科</u>の教科書P. 54～55「ものしり のうと」を見ながら、以下のものを作成するとよい。 タンポポの腕時計は、タンポポを二つに割いて手首に巻く。人形は、葉を縦に二つに折って巻く。風車は、はさみなどを使って茎に切り込みを入れ、水で濡らした後、松葉を通す。 レンゲソウのサングラスは、タンポポの茎を切り取って、はさみなどで切り込みを入れ、レンゲソウを2本その間に入れる。 シロツメクサはできるだけ長めの茎の方が編み込みやすい。2～3本を交差させ、交差部分をしっかりと押さえて上の茎をくると下の茎に巻き付けていく。3、4本目も同じ手順で巻き付ける。最後にまとめる用の1本をつなげて結ぶ。 ナズナのハート型の実の部分を持ち、下に引っ張る。実がぶらぶらとした状態になったら、耳のそばに持って行く。ナズナの茎を持って振ると、パチパチという

13	目	<p>○見付けた春で遊ぶ。</p>	<p>音が鳴る。また、ナズナの茎を親指と人差し指でつまみ、指を前後にスライドさせると、実がでんでん太鼓のようにぶつかって音がする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達とつくったものを見せ合い、何をつくったか、どうやって遊ぶかを伝えさせるようにする。 ・活動が終わったら、使った物を後片付けすること、手を洗って清潔にすることを指導する。
		<p>4 がっこうだいすき 「おいしい きゅうしょく」②</p> <p>○給食の準備をして、配膳をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該校の計画による。 <p>○会食をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・揃って「いただきます」の挨拶をする。 ・分量を加減する。 ・会食を始める。 ・食べられる児童は、おかわりをする。 ・揃って「ごちそうさまでした」の挨拶をする。 <p>○後片付けをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食器などを返し、机を戻す。 ・机拭きをする。 ・ワゴンを返却する。 <p>○歯磨きをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該校の方法による。 	<p>時間計上にかかわる各教科等：学活 「10の姿」：(イ)健康な心と体 (ハ)協同性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学活「おいしい きゅうしょく」として取り扱う。 ・「おいしい きゅうしょく」①は、学校生活でやってみたいこと、楽しいなことを児童から引き出して給食指導につなげることをねらいとし、「おいしい きゅうしょく」②は、給食指導として行う。 ・栄養教諭が所属する学校については、支援を依頼するとよい。
14	目	<p>朝の会から1時間目を連続した時間とし、幼児期に親しんできた遊びや活動、交流する時間などを位置付け、楽しい気持ちで1日がスタートするようにする。</p>	
		<p>1～2 はじめまして、よろしくね 「ともだちと うたって うごいて はなして あそぼう」⑧</p> <p>○音楽の教科書P.12～13</p> <p>○校庭の固定施設で遊ぶ。</p> <p>○国語の教科書P.12～13</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師の示した絵（いぬ、ねこ、ライオン、 	<p>時間計上にかかわる各教科等：音楽 体育 「10の姿」：(ヌ)豊かな感性と表現 (イ)健康な心と体 (ハ)協同性 (ニ)道徳性・規範意識の芽生え (リ)言葉による伝え合い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時に学習した「ひらいた ひらいた」を歌う。歌詞に合わせて、どのように歌うかや、どのように遊ぶかを考えて歌わせる（1番と2番の歌詞の違い、ふさわしい強弱や速度など）。 ・本時では、わらべうたで歌いながら、動きを合わせて遊ぶことを伝える。 ・鑑賞音源を聴いて曲の感じをつかみ、歌詞や遊び方を覚える。幼児教育施設での経験を聞き、曲を知っている児童がいたら、教え合うようにして遊ばせる。 ・「なべ なべ」は慣れたら、二人組だけでなく四人組でも遊ぶと楽しい。 ・音楽の教科書P.13の「うたで おはなし」では、教師が手拍子を打ちながら、歌で話しかける。旋律は自由だが、ラ・ソの2音などから始めると歌いやすい。また、「好きな遊びは何ですか？」などと、問いかけを続けると楽しい。 ・外の遊具で遊ぶのが好きという児童の願いを基にして、校庭にある固定施設を使った運動遊びにつなげるとよい。 ・体育として計上をするが、体操服には着替えずに遊びの一環として取り扱う。 ・約束やルールを守って遊ぶことの楽しさをに気付かせる。 ・外で遊んだ後は、うがい・手洗いをするように指導する。 ・黒板に絵を掲示する（教科書には動物の絵が示されているが、児童の興味・関心に合わせて、色、食べ物、

14 日 目	<p>ゾウ、パンダ)を見て、好きなものを選ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じものを選んだ人で集まり、選んだ理由を伝え合う。 ・違うものを選んだ人に選んだ理由を伝えたり、相手の話を聞いて感想を話したりする。 	<p>遊びなどの絵にしてもよい)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝え合うときの約束を確認する。教科書のように手をつないで発表させることも考えられる。 ・話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞かせるようにする。 ・伝え合うことが苦手な児童には、教師が聞いたり、伝え合わせたりする。
	<p>3 がっこうだいすき 「ひなん くんれんの しかたを しろう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「避難訓練」(学校行事)を実施する。 <ul style="list-style-type: none"> ・当該校の計画による。 	<p>時間計上にかかわる各教科等：行事 「10の姿」：(イ)健康な心と体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練の仕方は、当該校の計画案に従う。 ・避難訓練の意義を事前に話しておく。 ・「おはしも」(「おうた」が、おはしもの後続く場合もある)や「シェイクアウト」(まず低く、頭を守り、動かない)等の各避難訓練に必要な事前指導を行う。 ・避難経路図について説明する。 ・事後指導を行う。 ・<u>生活科</u>の教科書P.136「あんぜんの ペえじ」を活用したい。
	<p>4 たのしい がくしゅう 「かず とすうじ」①</p> <ul style="list-style-type: none"> ○<u>算数</u>の学習について知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・数や数字に関わるきまりを覚えたり、数字で考えたりする勉強 ○準備の仕方を知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・授業が始まる前に用具を準備する。 ○<u>算数</u>の教科書P.2～7を基に、数の大小について判断したり、数の量感を確認したりする。 <ul style="list-style-type: none"> ・タンポポや亀などの集まりに丸を付ける。 ・鳥と木を線で結んで、1対1で対応させて数の大小を判断する。 ・かえるとはすの葉を線で結んで、1対1で対応させて数の大小を判断する。 ・バケツやじょうろの上に数図ブロックを置き、その後、ブロックを固め、数の量感を確かめる。 	<p>時間計上にかかわる各教科等：算数 「10の姿」：(チ)数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 (ヘ)思考力の芽生え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>生活科</u>の教科書口絵P.8「どんな ことを するのか」での学習を想起させ、数の学習への関心を高めさせる。 ・<u>算数</u>の教科書のP.2～5を基に、同じ仲間のものをまとめて囲む活動をさせ「算数」の学習のイメージをふくらませる。 ・男の子と女の子が、学校に登校するまでに、何を見付けるのかというストーリーを考えさせるとよい。 ・教科書拡大図(デジタル教科書等)を活用するとよい。 ・筆箱、下敷き、教科書を重ねて机の前方脇に整理して置かせ、これから授業が始まることへの期待感をもたせる。 ・準備する用具は、学年便りなどを通して、前もって家庭に連絡しておくとうい。 ・数図ブロックを準備させる。 ・<u>算数</u>「オリエンテーション」として、初めて算数の教科書を使って学習をさせるが、ここでも数の感覚を養うことを重視して指導に当たるとよい。 ・「ともだち いっぱい にこにこ ひょう(たんじょうび ひょう)」を使った学習活動を想起させるとよい。 ・鉛筆を使って、教科書に直接丸を付けさせる。 ・1対1で対応させる方法は、算数の学習の基礎となるので、机間指導をして、確実にできているかを個別に確かめる。 ・1対1での対応とならない事例を確認することで、数の大小に気付かせる。 ・1つの絵に数図ブロックを1個を置くことに注意させる。 ・具体物と半具体物が1対1で対応することを知らせ、この半具体物が数であり、数字へと展開していくことを感覚的に捉えさせる。
	<p>15 朝の会から1時間目を連続した時間とし、幼児期に親しんできた遊びや活動、交流する時間などを位置付け、楽しい気持ちで1日がスタートするようにする。</p>	
4 日 目	<p>1～4 がっこうたんけん はじめよう</p>	<p>時間計上にかかわる各教科等：音楽 生活 国語 書写</p>

15 日 目	<p>「わくわく ときどき がっこうを あるこう」</p> <p>○ <u>音楽</u>の教科書P. 14～15</p> <p>○ <u>生活科</u>の学習について知る。 ・体験を通して、いろいろなことに気付いたり、表現したりする勉強</p> <p>○ <u>準備の仕方</u>を知る。 ・授業が始まる前に用具を準備する。</p> <p>○ 教科書P. 12～13を開き、学校はどんなところか、何があるか、だれがいるかなどを伝え合う。 「教室がたくさんあります。」(場所) 「階段や運動が保育園よりも大きいです。」(物) 「学校には、校長先生がいます。」(人)等</p> <p>○ 校舎内をみんなで探検する計画を立てる。</p> <p><めあて> ・おもしろい、不思議だなと思った場所や物を見付ける。 ・いろいろな人を見付ける。等</p> <p><約束> ・あいさつをする。 ・授業の妨げにならないように、2列で並び、静かに廊下を歩いて見学する。等</p> <p>○ 教師引率の下、校舎内を探検する。</p> <p>○ 校舎内を探検する。 「知ってる文字を見つけたよ。」 「跳び箱は8段あったよ。」 「消火器は火を消す道具だね。」 「AEDの場所は覚えておこう。」</p> <p>○ 校舎内を探検して見つけたことを発見カード</p>	<p style="text-align: center;">算数</p> <p>「10の姿」:(ヌ)豊かな感性と表現 (イ)健康な心と体 (ハ)協同性 (リ)言葉による伝え合い (ロ)自立心 (チ)数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 (ホ)社会生活との関わり (ヘ)思考力の芽生え (ト)自然との関わり・生命尊重</p> <p>・範唱を聴いて、曲の感じをつかみ、歌詞の表す情景や気持ちを想像しながら歌う。</p> <p>・生活科の教科書口絵P. 8～9「どんなことをするのかな」を参照させ、もっと学校のことを知りたい気持ちを高める。</p> <p>・生活科のねらいは、具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくことであることを教師自身が必ず確認しておく。</p> <p>・筆箱、下敷き、教科書を重ねて机の前方脇に整理して置かせ、これから授業が始まることへの期待感をもたせる。</p> <p>・準備する用具は、学年便り等を通して、前もって家庭に連絡しておくといよい。</p> <p>・校内には、興味深い場所や物、働いている人や上級生がいることに気付かせ、場所、物、人に着目させながら自由に発表させる。</p> <p>・生活科の教科書P. 14～15を参考にし、音楽室や理科室など上級生の活躍が見られる場所や、学校の特色が表われている場所を選ぶようにする。</p> <p>・教師の引率により、校舎内をみんなで探検することを伝える。</p> <p>・場所、物、人に着目するよう伝える。</p> <p>・どんな人がいたかを尋ね、「人に会いたい」という気持ちも高めさせる。</p> <p>・約束については、教科書P. 15の「やくそく」を参考にしながら、なぜそのような行動をするのかを児童に考えさせ、約束事を意識して探検するように促す。</p> <p>・国語の教科書P. 12～13「なんていおうかな」の挿絵を拡大しておき、場面に応じた言葉や動作を考えさせるとよい。</p> <p>・事前に教職員に連絡をしておき、協力を依頼しておく。</p> <p>・探検の観点を、児童自身が興味のあるものだけでなく、出会った人や幼児教育施設との相違点や共通点にも目を向けることを促す。</p> <p>・書写の教科書P. 1～2を参照し、教室、図書室、職員室、体育館、手洗い場、廊下、配膳室等にある文字に目を向けさせるとよい。</p> <p>・算数の教科書P. 15を参照し、ほうきの数、水槽のメダカの数、跳び箱の段の数などに目を向けさせるとよい。</p> <p>・消火器やAEDなど安全や救護の道具があることにも目を向けさせるとよい。</p> <p>・児童のつぶやきがあった場所などの写真を撮り、後で振り返られるようにしておく。</p> <p>・出会わせたい人には、事前に活動する時間を伝えて依頼をしておき、自然な形で出会えるようにするとよい。</p> <p>・歩いている途中で、諸感覚を使って何かに気付いている児童を見取る。音やにおいなどに気付いている児童がいたら、取り上げて称賛し、全員に広げる。</p> <p>・発見カードは、絵で表したり、絵と文字で表したりす</p>
--------------	---	--

15 日 目 4	<p>に書き、伝え合う。 「校長室に行きました。校長先生がお仕事をしていました。」 「保健室に行くと、養護の先生がいました。どんなときに保健室に行けばよいのか教えてもらいました。」 「用務員さんに会いました。どんなことをする人なのか、今度聞いてみたいです。」 「体育館がありました。みんなが運動をしていました。」 等</p> <p>○発表が終わったら、カードを校内マップに貼っていく。 「同じ音楽室でも、気付いたことが違うね。」 「〇〇さんの図書室のカードを見て、もう一度図書室に行ってみたくなったよ。」 「学校にはたくさんさんの教室があるんだね。」 「校内マップを発見カードでいっぱいになりたいな。」</p>	<p>るなど、一人一人に合わせた方法を探る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童同士の伝え合いは難しいので、教師が話を聞き取り、それを全体に広げるとよい。 ・友達の発表に対する感想をつぶやいた児童や自分の感想を交えて発表した児童を取り上げ、友達のよさを見付けたことを称賛する。 <p>・マップを近くで見せ、思ったことを自由につぶやいてもよい場を設ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校には様々な施設があり、多くの人がいてくれることに気付かせるとともに、学校は安全で楽しいところだと実感させる。 ・明日も学校探検をすることを伝え、学校に来るのが楽しみだという気持ちを高める。 ・ここで出された場所、物、人を各教科等との学習と関連させていくようにする。 ・今後、国語、算数の学習と関連させることができる。
16 日 目	<p>朝の会から1時間目を連続した時間とし、幼児期に親しんできた遊びや活動、交流する時間などを位置付け、楽しい気持ちで1日がスタートするようにする。</p> <hr/> <p>1～4 がっこうたんけん はじめよう 「いろいろなことを みつけよう」</p> <p>○ <u>音楽</u>の教科書P.12～13</p> <p>○校庭を探検する。 ・みんなが大きな声で体操しているね。 ・鉄棒が高いな。 ・池にオタマジャクシがいるね。</p> <p><約束> ・門の外には出ない。 ・帰ってきたら手洗い、うがいをする。</p> <p>○校庭を探検して見付けたことを発見カードに書き、伝え合う。 ・飼育小屋にかわいいうさぎがいました。触ってみたいです。 ・花壇にきれいなお花がありました。2年生が1年生の入学式のために育ててくれたと聞きました。1年生も花を育てるのかな。</p> <p>○発表が終わったら、カードを模造紙に貼っていく。</p>	<p>時間計上にかかわる各教科等：音楽 国語 生活 道徳 「10の姿」：(又)豊かな感性と表現 (イ)健康な心と体 (ハ)協同性 (ヘ)思考力の芽生え (ニ)道徳性・規範意識の芽生え (ロ)自立心 (ホ)社会生活との関わり (ト)自然との関わり・生命尊重 (リ)言葉による伝え合い (チ)数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚</p> <ul style="list-style-type: none"> ・範唱を聴いて、曲の感じをつかみ、歌詞の表す情景や気持ちを想像しながら歌う。 ・拍に合わせて腕を振るなどして、拍を聴き取りながら歌う。 ・校内マップを使って、これまでの学習を想起させ、学校探検にまた行ってみたい気持ちを高める。 ・担任が引率して、学級全体で探検をする。 ・児童が安全面や衛生面について意識を高められるように声掛けをする。 ・<u>生活科</u>の教科書P.16～17を見て、探検で見付けたいものを参考にさせてもよい。 ・児童のつぶやきがあった場所を中心に写真を撮り、後で振り返られるようにしておく。 ・<u>書写</u>「がっこうの もじ たんけん」と関連させ、校庭にある人、物、場所（こと）に関する文字にも目を向けさせる。 ・気付いたことや発見したことを、発見カードにかかせる活動は、<u>国語</u>「こんな もの みつけたよ」として取り扱う。 ・発見カードは、絵で表したり、絵と文字で表したりするなど、自分に合った方法で取り組むように促す。 ・模造紙の中心に校舎を描き、遊具や飼育小屋などの位置関係が分かるようにする。 ・模造紙を近くで見せ、思ったことを自由につぶやいてもよい場を設ける。 ・校庭にもたくさん発見があったことを確認し、学校は安全で楽しい場所であることをより実感させるような声掛けをする。

16 日 目 4	<p>○ <u>道徳科</u>の教科書P. 10～11</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳科は1時間単位で取り扱う。 ・前回と今回の学校探検を通して、出会った人と挨拶を交わしたことを想起させる。 ・道徳科の内容項目「B 礼儀」として、「あいさつのことば」を取り扱う。 ・知多カリの上記の内容を見ると、「はきはきとした気持ちのよい挨拶や言葉遣い、話の聞き方や食事の所作などの具体的な振る舞い方を身に付けることを通して、明るく接することができる児童を育てる。」とある。道徳科の授業を通して、日常生活を送るために欠かせない基本的な挨拶について具体的な状況の下での体験を通して実感的に理解を深めさせることが望まれる。 ・教科書の挿絵を拡大して提示し、様々な場面において、挨拶にはどんな言葉があるかを考えさせる。 ・吹き出しに挨拶の言葉を書かせてもよい。 ・感謝する気持ちを形に表すことも挨拶の一つであることを捉えさせたい。 ・自由に発表させる。 ・気持ちのよい挨拶を、進んで行おうとする気持ちを高める。
17 日 目	<p>朝の会から1時間目を連続した時間とし、幼児期に親しんできた遊びや活動、交流する時間などを位置付け、楽しい気持ちで1日がスタートするようにする。</p> <hr/> <p>1～2 がっこうたんけん はじめよう 「みつけた ことを おはなし しよう」</p> <p>○ <u>音楽</u>の教科書P. 14～15</p> <p>○ 校内マップや写真を見て、もっと知りたいことを伝え合い、次の探検の計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この写真は図書室です。本が読める部屋で、たくさんの本がありました。 ・この写真の人は校長先生です。校長室にいました。 ・この写真は音楽室です。太鼓の他にどんな楽器があるのか知りたいです。 <p>○ 学校のことを詳しく知る方法を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もう一度探検する。 ・会いに行って、直接お話を聞く。 <p>○ 児童の興味のある場所や人を挙げ、コースやグループ決めをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1グループ4～5人にする。 ・複数箇所を探検してもよいが、必ず1回はインタビューができるようなコースにする。 <p>○ 聞きたいことを考え、インタビューの練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「失礼します。こんにちは。用務員さんは何のお仕事をするのですか。 (インタビューが終わったら) ありがとうございました。」 	<p>時間計上にかかわる各教科等：音楽 書写 生活 国語</p> <p>「10の姿」：(ヌ)豊かな感性と表現 (イ)健康な心と体 (ハ)協同性 (ホ)社会生活との関わり (ト)自然との関わり・生命尊重 (リ)言葉による伝え合い (チ)数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚</p> <ul style="list-style-type: none"> ・範唱を聴いて、拍に合わせて腕を振るなどして、拍を聴き取りながら歌う。 ・付点のはずむリズムを感じながら歌うとよい。 ・<u>生活科</u>の学校探検をすることを伝える。まず写真を見せ、何の写真であるかクイズ形式にして、児童の学習意欲を高める。 ・思い出させる活動を通して、学校探検でわくわくした気持ちやもっと知りたくなった気持ちを想起させる。 ・なかなか意見が出ないときは、「どんな道具があったか」「どんな仕事をするか」などの問いかけをし、知りたい気持ちをもたせる。 <p>・2回目の探検は、児童のみで探検に行くことを伝える。</p> <p>・児童からのもっと知りたいという思いや願いを取り上げ、学校にはまだまだ秘密があることを伝え、2回目の学校探検につなげる。</p> <p>・児童同士での話し合いが難しい段階であるため、生活班もしくは児童の興味に合わせて意図的にグループを組み、後からコースを考える。また、児童の意見を基に探検コースを幾つか用意し、児童に選ばせてもよい。</p> <p>・<u>生活科</u>の教科書P. 17、20の「ものしりのうと」を見て、インタビューの仕方や挨拶の必要性について考えさせる。</p> <p>・<u>国語</u>の教科書P. 18～19「なんて いおうかな」の挿絵を拡大しておき、場面に応じた言葉や動作を考えさせるとよい。</p> <p>・教職員の顔写真を用意しておき、まだ関わっていない</p>

	<p>・相手に聞こえる声で、目を見て話す。</p>	<p>人が学校にはたくさんいることに気付かせてもよい。</p>
17日	<p>3 がっこうだいすき 「うたに あわせて いって みよう」①</p> <p>○国語の教科書P.22～24「うたに あわせて あいうえお」を繰り返し読む。</p> <ul style="list-style-type: none">・「うたに あわせて あいうえお」の歌を聞き、様子を浮かべたり、歌まねしたりする。・「うたに あわせて あいうえお」を自分たちで声に出して読む。・「うたに あわせて あいうえお」を読み、気付いたことを伝え合う。 「あかるい <u>あ</u>さひだ <u>あ</u>いうえお と 最初に <u>あ</u> がついています。」 「楽しい歌です。かえるさんも楽しそうです。」 「今日も朝日を見ました。」 等・気付いたことや見付けたことを思い出しながら、「うたに あわせて あいうえお」を口形に気を付けて読む。 <p>○国語の教科書P.22～23「うたに あわせて あいうえお」の「あ・い・う」を指でなぞる。</p> <p>○国語の教科書の「あ・い・う」の文字を書いて練習する。</p>	<p>時間計上にかかわる各教科等：国語 「10の姿」：(リ)言葉による伝え合い (チ)数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚</p> <ul style="list-style-type: none">・範唱CDを活用したり、教師の範読を聴かせたりする。・体を動かしたり、手足でリズムを取ったりさせる。・姿勢、口の開け方、声の大きさ、リズム、テンポなどに気を付けさせる。・「い」「う」「え」「お」についても同様に答えさせることができる。・言葉から、連想することなどを発表させる。 <p>・写真の口形を参考にさせる。</p> <p>・青い部分が一画目であることを押さえる。</p> <p>・筆順を丁寧に教える。</p>
4日	<p>4 がっこうだいすき 「かず とすうじ」①</p> <p>○教室の中にある数字を見付ける。</p> <div><div>時計…1時、2時～ カレンダー…1月、2月～、1日、2日～ 出席番号…1番、2番～ 友達の数…1人、2人～ 等</div></div> <p>○算数の教科書P.10～11</p> <ul style="list-style-type: none">・挿絵に数図ブロックを対応させて、5までの数を数えたり、唱えたりする。 <div><div><div>(数える)</div><div>(唱える)</div><div>とけい ……………○ →1</div><div>消しゴム……………○○ →2</div><div>本 ……………○○○ →3</div><div>花のかざり……………○○○○ →4</div><div>鉛筆 ……………○○○○○→5</div></div><p>・挿絵の数を唱える。</p><div><div>(唱える)</div><div>ごみばこ…………… (○)→1</div><div>ちりとり…………… (○○)→2</div><div>ほうき …………… (○○○)→3</div><div>ぼうし …………… (○○○○)→4</div><div>かばん …………… (○○○○○)→5</div></div></div> <td><p>時間計上にかかわる各教科等：算数 「10の姿」：(へ)思考力の芽生え (チ)数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚</p><ul style="list-style-type: none">・身の周りには、たくさんの数字があることに気付かせる。<ul style="list-style-type: none">・教科書拡大図（デジタル教科書等）を用いて、視覚的に考えさせるとよい。あるいは、教科書P.10にあるQRコードを読み取り、映像を見せるとよい。・挿絵と数図ブロックを1対1で対応させ、数図ブロックの塊が数であることを知らせる。・塊になっている数図ブロックを数えてから唱えさせる。・イヌの挿絵に着目させ、具体物（挿絵等）と半具体物（数図ブロック）と数字を対応させて、数の概念を養うとよい。・慣れてきたら、数図ブロックを数えずに唱えさせる。・ペアで、唱える練習をさせるとよい。・教科書の挿絵を見ながら、他にも5までの数が隠れていないか見付けさせてもよい。</td>	<p>時間計上にかかわる各教科等：算数 「10の姿」：(へ)思考力の芽生え (チ)数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚</p> <ul style="list-style-type: none">・身の周りには、たくさんの数字があることに気付かせる。 <ul style="list-style-type: none">・教科書拡大図（デジタル教科書等）を用いて、視覚的に考えさせるとよい。あるいは、教科書P.10にあるQRコードを読み取り、映像を見せるとよい。・挿絵と数図ブロックを1対1で対応させ、数図ブロックの塊が数であることを知らせる。・塊になっている数図ブロックを数えてから唱えさせる。・イヌの挿絵に着目させ、具体物（挿絵等）と半具体物（数図ブロック）と数字を対応させて、数の概念を養うとよい。・慣れてきたら、数図ブロックを数えずに唱えさせる。・ペアで、唱える練習をさせるとよい。・教科書の挿絵を見ながら、他にも5までの数が隠れていないか見付けさせてもよい。
18日	<p>1～3 がっこうたんけん はじめよう 「もっと くわしく しりたいな」</p> <p>○学校探検に行くことを知らせる。</p>	<p>時間計上にかかわる各教科等：生活 国語 「10の姿」：(リ)言葉による伝え合い (ロ)自立心 (チ)数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 (ハ)協同性 (ホ)社会生活との関わり</p> <ul style="list-style-type: none">・生活科の教科書P.8「どんな ことを するのか」を想起させ、学校探検に行くことへの意欲を高める。・学校探検に行く前に、生活科の教科書P.15の「やくそく」を見て、国語「なんて いおうかな」の学習を想起させながら、挨拶の仕方について確認する。

18 日	<ul style="list-style-type: none"> グループに分かれて、学校探検をする。 <ul style="list-style-type: none"> 職員室、音楽室、理科室コース 用務員さん、保健室、掲示物コース 図書室、特別支援学級、校長室コース 等 分かったことや気付いたことを発見カードにかく。 <ul style="list-style-type: none"> 校長先生の似顔絵の近くに「こうちょうせんせい」と書きたいな。 図書室には、本の並び方も分かるようにかきたいな。 分かったことや気付いたことをペアで伝え合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 入ってはいけない場所には、あらかじめ「×」などの貼り紙をしておくといよい。 児童の実態に配慮しながら、教師が主導してグループをつくることも考えられる。 声の大きさや話し方、振る舞いに気を付けて、学校にいる人たちに積極的にインタビューをしながら、探検させる。 グループで何度も練習させる。 事前に教職員に探検についての連絡をして、探検の約束が守れない児童への指導を依頼しておくといよい。 探検の様子が振り返られるように写真を撮っておくといよい。 気付いたことや発見したことを発見カードに書かせる。発見カードは、絵に加えて、単語や文でも表現できるといよい。 校内で見付けたものを思い出させるために、探検の様子を撮影した写真を提示するといよい。 国語「こんなもの みつけたよ」として取り扱い、校舎内で見付けたものを思い出して、紹介したいことを考えながら絵に描かせ、友達に紹介する活動とする。伝え合う際は、国語の教科書の例示のように、「(場所)に、○○がありました。(感想)です。」という話型を使って発表させる。
目	<p>4 がっこうだいすき 「かずと すうじ」②</p> <ul style="list-style-type: none"> 図工でつくった「ともだち いっぱい にこここ ひょう(たんじょうび ひょう)」を使って数字を唱えるなど、日常生活にある5までの数を探し、数を唱える。 算数の教科書P.10の絵を見て、5までの具体物の数を数えたり、唱えたり、数字でかいたりする。 具体物の増加や減少に合わせて、数図ブロックを操作し、数の系列を理解する。 挿絵、数図ブロック、数字のどれかを提示し、他の物を対応させ、数を理解する。 	<p>時間計上にかかわる各教科等：算数 「10の姿」：(へ)思考力の芽生え (チ)数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚</p> <ul style="list-style-type: none"> 慣れない児童には、数図ブロックを使用させ、具体物と対応させてから、唱えさせるといよい。 赤鉛筆を使って丸の中に、対応する数だけ色を塗らせる。 正しい書き順で書いているか、鏡文字になっていないか等を机間指導で確かめる。 1に1増えると2になることなどを数図ブロックの操作を通して理解させる。 具体物(挿絵等)と半具体物(数図ブロック)と数字との関連が分かるよう、5までの数字で繰り返し練習をさせる。
19 日 目	<p>1 はじめまして、よろしくね 「いちねんせいを むかえるかいに さんかしよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> 「1ねんせいを むかえるかい」(児童集会)に参加する。 <ul style="list-style-type: none"> 当該校の計画による。 <hr/> <p>2～3 がっこうたんけん はじめよう 「みんなの はっけんを ききあおう」</p> <ul style="list-style-type: none"> 発表の練習をする。 発見カードの内容を伝え合う。 「用務員さんにお話を聞きました。用務員さんのお仕事は、校内の掃除や草花のお世話をしていることが分かりました。学校で会ったら、自分からあいさつしたいです。」 「校長室を見ました。校長室には、大きなソファや賞状がありました。校長先生には○○学校のいいところを教えてくださいまし 	<p>時間計上にかかわる各教科等：児童集会 「10の姿」：(ハ)協同性 (ホ)社会生活との関わり</p> <ul style="list-style-type: none"> 新入生の入学を全校児童が祝福する会であることを事前に話しておく。 入学の嬉しさを再度実感させたい。 <hr/> <p>時間計上にかかわる各教科等：生活 図工 「10の姿」：(ヌ)豊かな感性と表現 (ヘ)思考力の芽生え (リ)言葉による伝え合い</p> <ul style="list-style-type: none"> 発表はグループ単位で行う。 一人一箇所を担当させ、2～3文話せるようにする。見聞きしたことに加え、自分の感想や考えたことを話すように促す。国語「こんなもの みつけたよ」と関連させて発表させる。 グループ内でカードの内容がなるべく重ならないように指導する。 グループごとで、話す順や内容を相談する時間や練習の時間を設ける。 見付けたことを称賛し、自分自身への気づきを促すよ

19 日	<p>た。学校のことがもっと好きになりました。」</p> <p>「保健室の〇〇先生とお話しました。『おなかが痛くなったり、気分が悪くなったりしたときは、いつでも保健室に来てくださいね』と言ってくださいました。」</p> <p>「音楽の〇〇先生が音楽室に入れてくれました。特別に、校歌をピアノで弾いてくれました。とても、上手でした。早く校歌を覚えたいです。」 等</p>	<p>うな声掛けをするとよい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ただ単に人だけを発表させるのではなく、児童がそこに着目した意図も伝えられるように指導する。 ・教師が1対1で話を聞き取り、それを自然な形で全体に広げるとよい。 ・見付けたことを称賛し、自分自身への気付きを促すような声掛けをするとよい。 ・学校にはいろいろな人がいて、自分たちのために働いてくれていることに気付かせる。 ・「みつけたよ こおなあ」をつくるなどして、児童が見付けたことをいつでも情報交換できるようにしておく。 ・学校探検の学習の振り返りは、スタートカリキュラム終了後に実施する。 ・<u>図工</u>「どんどん かくのは たのしいな」の学習として取り扱い、学校探検を通して自分が描きたいものを描かせる時間としてもよい。
4 目	<p>4 がっこうだいすき 「かずと すうじ」③</p> <ul style="list-style-type: none"> ○<u>算数</u>の教科書P.12の上段の絵を見て、5までの具体物の数を数えたり、唱えたり、数字でかいたりする。 ○<u>算数</u>の教科書P.13を見て、具体物や半具体物を用いて、4や5を分解したり合成したりして、数の楽しさを味わう。 	<p>時間計上にかかわる各教科等：音楽 「10の姿」：(へ) 思考力の芽生え (ち) 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアで、唱える練習をさせるとよい。 ・正しい書き順で書いているか、鏡文字になっていないか等を机間指導で確かめる。 ・初めは、具体物を用いるとよい。 ・具体物による分解や合成の理解ができたなら、おはじきなどの半具体物を使って、ゲームをしながら数の分解や合成に慣れさせる。
20 日 目	<p>1 がっこうだいすき 「うたに あわせて いって みよう」②</p> <ul style="list-style-type: none"> ○<u>国語</u>の教科書P.22～24「うたに あわせて あいうえお」を繰り返し読む。 <ul style="list-style-type: none"> ・「うたに あわせて あいうえお」の歌を聞き、様子を浮かべたり、歌まねをしたりする。 ・「うたに あわせて あいうえお」を自分たちで声に出して読む。 ・「うたに あわせて あいうえお」を読んで、気付いたことを伝え合う。 ・気付いたことや見付けたことを思い出しながら、「うたに あわせて あいうえお」を口形に気を付けて読む。 ○<u>国語</u>の教科書P.24「うたに あわせて あいうえお」の「え・お」を指でなぞる。 ○<u>国語</u>の教科書の「え・お」の文字を書いて練習する。 ○「あいうえお」を声に出して唱えたり、ノートに書いて練習したりする。 ○これまでに習った文字を使って言葉を作り、ノートに書いて言葉集めをする。 	<p>時間計上にかかわる各教科等：国語 「10の姿」：(り) 言葉による伝え合い (ち) 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚</p> <ul style="list-style-type: none"> ・範読CDを活用したり、教師の範読を聴かせたりする。 ・体を動かしたり、手足でリズムを取ったりさせる。 ・姿勢、口の開け方、声の大きさ、リズム、テンポなどに気を付けさせる。 ・言葉から、連想することなどを自由に発表させる。 ・写真の口形を参考にさせる。
	<p>2 がっこうだいすき 「からだを ほぐして ばらんすを とうろ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○<u>体育</u>の「体づくり運動（体ほぐし）」をする。（活動例） 	<p>時間計上にかかわる各教科等：体育 「10の姿」：(い) 健康な心と体 (ハ) 協同性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体ほぐしは、心ほぐしでもあることを理解して、運動することの楽しさや心地よさを実感させる。 ・ストレッチや相手の肩や頭、腕をほぐす「きゅうりの

20 日	<p>＜体のバランスをとる運動遊び＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リラックスしながら、ペアでストレッチをする。 ・心が弾むような動作で、リズムに乗って運動を行う。 等 <p>＜体を移動する運動遊び＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・壁にタッチしたら戻る。 ・蟹走りをする。 ・スキップをして走る。 ・回転を3回入れて走る。 等 <p>＜用具を操作する運動遊び＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボールを使って、つかむ、持つ、下ろす、回す、転がす、運ぶ、投げる等の運動をする。 ・フラフープを使って、持つ、回す、転がす、くぐる、運ぶ、投げる、捕る等の運動をする。 <p>＜力試しの運動遊び＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人を押す、引く動きや力比べをしたり、人を運ぶ、支える動きをしたりする。 <p>○集合の仕方を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指示に従い、集合したり、並んだりする。 	<p>塩もみ」などの活動を教師が示し、体の状態を確認し合わせるとよい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児教育施設で行ったことのある遊戯や、簡単なリズム運動を取り入れるとよい。 ・きまりを守らせる。 ・楽しく体を動かしながら、多様な基礎感覚やバランス感覚を身に付けさせる。 ・約束として、確認しておくといよい。 <p>(指導例)</p> <p>ピッ・ピーの笛…「しゅっ・ごー (集合)」の合図。指輪並び…輪になって集合する。</p> <p>扇子並び…教師を中心に、扇子状に集合する。 等</p>
目	<p>3 がっこうだいすき 「がっこうたんけん」</p> <p>○前時でもっと知りたいと考えたことを思い出し、グループで学校探検をする。</p>	<p>時間計上にかかわる各教科等：生活 図工</p> <p>「10の姿」：(ヌ) 豊かな感性と表現 (ヘ) 思考力の芽生え (リ) 言葉による伝え合い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校探検に行く前に、<u>生活科</u>の教科書P.15の「やくそく」を見て、<u>国語</u>「なんて いおうかな」の学習を想起させながら、挨拶の仕方について確認する。 ・分かったことや気付いたことを発見カードに記入する。
4	<p>4 はじめまして、よろしくね 「そうじの しかたを おぼえよう」</p> <p>○掃除をする前の教室の汚れを調べ、掃除の意義について考える。</p> <p>「汚いと、やる気が出ません。」 「汚いと、病気になります。」 等</p> <p>○掃除道具の正しい使い方や掃除道具のしまい方について知る。</p> <p>○掃除場所、当番と役割分担を知る。</p> <p>○教室掃除の仕方を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該校の方法による。 	<p>時間計上にかかわる各教科等：学活</p> <p>「10の姿」：(イ) 健康な心と体 (ハ) 協同性 (ロ) 自立心</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>学活</u>「ぼくも わたしも 1ねんせい」として、取り組み。 ・初めて掃除をさせる日に合わせて実施する。 ・小学校では、自分たちが使った場所は、自分たちで掃除をすることを知らせる。 ・掃除をしないと汚れて、清潔に毎日を過ごすことができないことを実感させる。 ・自分たちで教室をきれいにしようとする意欲を高めさせる。 ・この日までに、学級で必要な掃除道具を準備しておく。 ・掃除道具に、番号を付けておくなど、当番が迷わず使用できるようにしておく。 ・教師が一つずつ使い方の手本を示し、児童に体験させる。 ・事前に当番表をつくり、その見方と役割について説明する。 ・一人一人の児童が自分の役割が分かるよう細かく分担し、責任をもって掃除できるようにするとよい。 ・始めの挨拶の仕方、机・椅子の運び方、掃き方、ごみの始末の仕方、後片付けの仕方、終わりの挨拶の仕方等を掃除させながら指導する。 ・掃除の仕方は学年で統一しておくといよい。 ・まずは、教室の掃除の仕方を定着させ、その他の箇所については、随時指導に当たる。

下のように「こどものひを いわおう」を実施する場合は、「みんな なかよし いちねんせい」の学習活動の一部と入れ替えて実施する。

日・時間	学 習 活 動	留 意 事 項
付 録	<p>こどものひを いわおう①</p> <ul style="list-style-type: none"> こどもの日の行事や飾り物などについて知っていることを話し合う。 「端午の節句とも言います。」 「鯉のぼりや兜を飾ったり、菖蒲湯に入ったりします。」等 「こいのぼり」の歌を歌う。 鯉のぼりづくりをする。 うろこをつくる。 うろこを着ける。 「こいのぼり集会」ですることを話し合う。 	<p>計上：図工、生活、音楽、学活等で2時間分</p> <ul style="list-style-type: none"> 元々は男子の健やかな成長を祈願して、行われた行事である。 こどもの日に鯉のぼりを揚げたり、兜を飾るいわれについて考えさせたり、話をさせたりする。 大空にこいのぼりが泳いでいる様子を想像させながら歌を歌い、自分たちで鯉のぼりづくりをすることへの期待感を膨らませる。 「こいのぼり集会」をすることを知らせる。 戸外に揚げる大きな鯉のぼりを力を合わせてつくることを知らせる。 胴体については、あらかじめカラービニル袋を切って輪にし（3～4枚分位）、布ガムテープでつなぎ合わせておく。 口に針金を入れて、丈夫にしておくといよい。 目、ひれ、尾を貼っておく。 うろこの形に切った色紙などに、絵と名前をかく。絵については、一人一人の顔や好きな動物をかいた物でもよいし、手形を押した物にする方法もある。複数枚つくらせる。 セロハンテープで貼る。 時間があれば、新聞紙で兜をつくらせてもよい。 どんな内容で楽しむかを話し合ってから決める。当日の進行役やゲームの係も決めておくといよい。 ペア活動や縦割り活動を利用して「こどもの日」の行事を計画してもよい。
	<p>こどものひを いわおう②</p> <ul style="list-style-type: none"> 「こいのぼり集会」をする。 <ul style="list-style-type: none"> つくった鯉のぼりを飾る。 「こいのぼり」の歌を歌う。 計画に沿った活動をする。 「こいのぼり集会」を振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> 楽しかったこと 自分ががんばったこと 等 	<p>計上：生活、音楽、学活等で2時間分計上</p> <ul style="list-style-type: none"> 学年で時間を合わせて行うようにするとよい。 口にひもをつけて国旗掲揚塔などに揚げるとよい。 歌うことによって、「こいのぼり集会」への意欲を喚起する。 みんなで歌ったり、ゲームをしたりして楽しむ。 簡単な絵と言葉で表現できるような記録カードを用意する。 友達と協力し合って楽しく活動できたことや、みんなで大きな鯉のぼりをつくったことなど児童のよさを称賛し、活動への満足感や入学してからの自分たちの成長が自覚できるように声掛けをする。
4		